

On va signer
en
Langue des Signes d'Afrique Francophone !

著者: 亀井伸孝 (Nobutaka KAMEI)

監修: エブナ・エトウンディ・アンリ (Evouna Etoundi Henri)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

2008 年度言語研修

「フランス語圏アフリカ手話」

Août - septembre 2008

La formation linguistique

"Langue des Signes d'Afrique Francophone"

L'Institut de Recherche sur les Langues et Cultures d'Asie et d'Afrique,

Université des Langues Etrangères de Tokyo

Préface はじめに

本書は、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2008 年度言語研修「フランス語圏アフリカ手話 (Langue des Signes d'Afrique Francophone [LSAF])」のテキストとして編集されました。

アジアやアフリカの諸言語を取り上げて 100～150 時間の集中講義を行う本研究所の言語研修は、1967 年に始まって以来、2007 年までに計 40 回開催されました（試行期間を含み、不開催の 1969 年を含まない）。2007 年までに教授されたのべ 108 種類の言語はすべて音声言語でしたが、2008 年度に本事業として初めて、ろう者が話す手話言語を取り上げることとなりました。その最初の手話言語が、本書でご紹介する「フランス語圏アフリカ手話」です。

大西洋を越えてアフリカに伝播したアメリカ手話をルーツとし、音声フランス語の影響を受けてアフリカで成立したこの手話は、西・中部アフリカのフランス語圏諸国のろう者の間で広く用いられている、アフリカを代表する手話言語のひとつです。

この研修では、フランス語圏アフリカ手話の学習を通して、その語学力を身につけるほか、文化的・歴史的背景をも含めてアフリカのろう者社会への理解を深めることをねらいとしています。本書を手にとるみなさんは、フランス語圏アフリカ手話の言語世界にふれるとともに、アフリカのろう者の文化と歴史の魅力にも出会うことでしょう。こうした理解に根ざして、言語的マイノリティであるろう者のことを常に念頭に置きながら、研究や教育、国際交流などのさまざまな分野で、手話を使用言語として活躍する人材となっていただくことを願ってやみません。

このテキストでは、日本人の聴者の学生である淳さんが、カメルーンのろう者の教員であるシャルルさんを訪ね、手話を学びながらアフリカのろう者の生活や文化を見聞するというストーリーに沿って、LSAF の初歩を学べるようになっています。手話言語と同時に、アフリカの香りやろう者たちの暮らしぶりを感じとっていただければと思います。

また、この言語研修のために、フランス語圏アフリカ手話の DVD を作成しました。DVD には、日仏二言語からこの手話の動画を引くことができる辞典のほか、本書に含められた各課の会話スキット、あいさつなどの会話表現、文法、自然な会話などが収録されています。ろう者の生きた手話を学ぶために、ぜひ DVD 手話動画辞典・教材を積極的に活用してください。

では、始めましょう。

On va signer en Langue des Signes d'Afrique Francophone!

(フランス語圏アフリカ手話で話そう！)

著者 亀井伸孝

2008 年 7 月

Préface	1
はじめに	
Table des matières	2
目次	
Terminologie	5
用語	
Entrée	6
手話会話のマナー: とりわけ初めて手話言語を学ぶ方がたへ	
Qu'est-ce que la Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF)?	8
フランス語圏アフリカ手話とは?	
Matériaux pédagogiques	10
教材と授業の進め方	
Présentation de l'édition	11
凡例: 本書の使い方	
Leçon 0 : Alphabet manuel et nombre	14
第0課 指文字と数	
Leçon 1 : "Bonjour!"	16
第1課 「こんにちは！」	
# salut (あいさつ)	
Leçon 2 : "Je m'appelle Jun."	20
第2課 「私の名前は淳です」	
# alphabet manuel (指文字)	
Leçon 3 : "Je suis sourd."	24
第3課 「私はろう者です」	
# S+V, S+A, oui/non (主語+動詞、主語+属詞、はい/いいえ疑問文)	
Leçon 4 : "Il y a beaucoup de fruits."	28
第4課 「果物がたくさんあります」	
# Il y a / Il n'y a pas (ある/ない)	

Leçon 5 : "Les Camerounais mangent le ndolé."	32
第5課「カメルーン人はンドレを食べます」	
# S+V+COD (主語+動詞+直接目的補語)	
Leçon 6 : "Je ne bois pas de bière."	36
第6課「私はビールを飲みません」	
# négation (否定文)	
Leçon 7 : "Qui est cet homme?"	40
第7課「この人はだれですか？」	
# impératif, qui (命令文、だれ)	
Leçon 8 : "Qu'est-ce que ton programme?"	44
第8課「君の予定は何ですか？」	
# que (何)	
Leçon 9 : "Où pars-tu?"	48
第9課「君はどこに行くの？」	
# où, comment (どこ、どのように)	
Leçon 10 : "Quand es-tu arrivé au Cameroun?"	52
第10課「君はいつカメルーンに着いたの？」	
# quand (いつ)	
Leçon 11 : "Pourquoi est-ce que tu rentres?"	56
第11課「君はなぜ帰るの？」	
# pourquoi, quelle heure (なぜ、何時)	
Leçon 12 : "Ça fait combien?"	60
第12課「それ、いくらですか？」	
# combien, quel âge (いくら/いくつ、何歳)	
Leçon 13 : "J'ai visité le Japon."	64
第13課「私は日本に行きました」	
# temps (時制)	
Leçon 14 : "Je veux apprendre la langue des signes."	68
第14課「私は手話を学びたい」	
# verbe (動詞)	

Langue des Signes d'Afrique Francophone

Leçon 15 : "Donne-moi ton adresse postale."	72
第 15 課「君の住所をください」	
# S+V+COD+COI (主語+動詞+直接目的補語+間接目的補語)	
Leçon 16 : "Je trouve ce pagne rouge très beau."	76
第 16 課「この赤い布はとてもきれいだと思う」	
# S+V+COD+A, lequel, comparatif (主語+動詞+直接目的補語+属詞、どちら、比較級)	
Leçon 17 : "Vous chantez très bien!"	80
第 17 課「みなさん、歌がお上手ですね」	
# adverbe (副詞)	
Leçon 18 : "Les parents dont les enfants sont sourds viennent à l'école."	84
第 18 課「ろう児をもつ親たちが学校に来ています」	
# pronom relatif (関係代名詞)	
Leçon 19 : "Si tu me donnes le message, je te réponds tout de suite."	88
第 19 課「メールをくれたらすぐに返事するよ」	
# proposition (節)	
Leçon 20 : "Ma sœur m'a dit qu'elle était occupée."	92
第 20 課「姉は忙しいと言っていました」	
# discours (話法)	
Référence	96
文献	
Remerciements	97
謝辞	
Appendices	98
付録	

Terminologie 用語

※ () 内は女性

手話言語 langue des signes ラング・デ・スィーニュ

手指や表情を用いる視覚的な自然言語の総称。単に「手話」と言うこともある。

手話単語 signe スィーニュ

手話言語を構成する語（単語）。単に「手話」と言うこともある。

音声言語 langue parlée; langue orale ラング・パーレ、ラング・オラール

音声を用いる聴覚的な自然言語の総称。

ろう者 les sourds (les sourdes) レ・スール (レ・スルド)

耳が聞こえない、手話を話す人たち。

聴者 les entendants (les entendantes) レザンタンダン (レザンタンダント)

耳が聞こえる人たち。「健聴者」と言うこともある。

難聴者 les malentendants (les malentendantes) レ・マランタンダン (レ・マランタンダント)

耳が聞こえづらい人たち。

中途失聴者 les devenus sourds (les devenues sourdes)

レ・デヴニュ・スール (レ・デヴニュ・スルド)

人生の途中で耳が聞こえなくなった人たち。

手話通訳者 interprète en langue des signes

アンテルプレット・アン・ラング・デ・スィーニュ

手話言語と音声言語の間を媒介する通訳者。異なるふたつの手話言語の間の通訳を行う人も含まれることがある。

ろう者コミュニティ communauté des sourds コミュノテ・デ・スール

手話言語を話す各地のろう者たちによって構成される言語集団。

ろう文化 culture des sourds キュルテュール・デ・スール

ろう者コミュニティにおいて共有、伝承される文化要素の総称。

Entrée 手話会話のマナー
- とりわけ初めて手話言語を学ぶ方がたへ -

アフリカの話題に入る前に、ろう者と手話に接する時のマナーについて記します。

とりわけ、これまでまったく手話を勉強したことがない方がたは、手話に対する誤解や偏見をもったまま授業に参加すると、学習上の大きなハンディになってしまうだけでなく、授業を担当するろう者の講師との間に異文化摩擦を生んでしまうおそれがありますので、手話とろう者の文化についてあらかじめ自習し、理解を深める努力をしていただくことを望みます。

■「手話は自然言語である」という認識をもってください

手話は世界共通のジェスチャーではありません。国や地域によって異なる文法と語彙をそなえた、数多くの自然言語の総称です。ジェスチャーやパントマイムなどの身体表現を学ぶのではなく、一つの新しい言語を学ぶという姿勢をもって学習に臨んでください。

■手話は地域によりまったく異なります

この言語研修で学ぶ「フランス語圏アフリカ手話」は、西・中部アフリカ諸国のろう者が話している言語です。その地域に行けば、ろう者たちが自然な日常会話の中で用いている様子を見ることができますが、ほかの地域では話されていません。とくに、日本のろう者が話している日本手話とはまったく異なります。この言語研修に参加したことで、「手話をひとつ覚えた＝日本の聞こえない人に対しても通じるだろう」と思い込んではいけません。できることなら、それぞれの地域で別途、日本手話の学習をされることをおすすめします。

■同じフランス語圏であっても手話はさまざまです

前項にも深く関わりますが、同じフランス語圏の国・地域であっても、ろう者の手話はさまざまです。フランスのろう者たちが話すフランス手話 (Langue des Signes Française [LSF]) は、私たちが学ぶフランス語圏アフリカ手話とは異なる言語ですので、この手話がフランスのろう者に通じると考えてはいけません。また、ベルギーにはベルギー手話、ケベックにはケベック手話が分布しており、同じフランス語圏といえど、ろう者たちは別べつの言語集団を構成しています。

■ろう者が手話を話す少数言語集団であることを尊重してください

「ろう者は耳が聞こえない、能力の劣った人である」という認識をもっては、手話言語は身に付きません。視覚的言語である手話を話し、独自の文化と歴史をもった言語集団であるという見方を基本としながら、異文化理解の姿勢をもって学び、かつ接するよう心がけてください。

■本人が望まないかぎり、ろう者に声で話しかけてはいけません

耳が聞こえない、手話を第一言語とするろう者たちに対して、本人が望んでいないのに、声で話しかけたり声で話すことを求めたりすることは、重大なマナー違反です。一般に、耳が聞こえない人は音声でのコミュニケーションを望まないことが多く、何気なく声で話しかけたつもりでも、実は相手に大きな不快感を与えている可能性が高いのです。また、口の動きを読み取るように求めることもひかえましょう。相手がどのようなコミュニケーション手段を望むのかを確かめてから、筆談をしたり、手話通訳を通して話したりするなど、視覚的な伝達方法を選びます。

■手話はろう者から学びましょう

本や手話辞典だけで、生きた手話会話を学ぶことはできません。また、手の形や動きを覚えるだけでなく、背景にあるろう者の慣習や価値観、ものの見方などの文化全体をあわせて学ぶことが大切です。

■原則として、手話を話す時は声を出しません

手話は音声言語とは異なる言語ですので、同時に話すことはふつう行いません。声に頼ったり、音声言語の語順や文法にとらわれたりするのではなく、手話という目で見ると言語の世界にとびこんでください。この講義の中でも、「声でのコミュニケーションを禁止する時間帯」を設けます。また、ろう者、聴者を問わず、手話を話す人に対して、声を付けて話すよう求めることはしません。手話を独自の言語として尊重する姿勢をもつようにします。

■自然な口型は付けましょう

声を出すことは不要だと述べましたが、逆に「音声と口に関わる要素をすべて排除しよう」と思い込み、かたくなに口を閉ざして手話を表現するのもかえって不自然です。手話は、口型（口の形や動き）による多様な表現をその一部としてもっています。その中には、手話に固有の口型もあれば、隣接する音声言語（本研修であつかうフランス語圏アフリカ手話であれば音声フランス語）から借用した口型も多く見られます。必ずしも明瞭でなくてかまいませんので、語によっては自然な口型をそえるようにしましょう。

手話の世界に入り、ろう者たちの文化を学ぶことは、耳の聞こえる人たちにとってまさしく異文化世界へのフィールドワークとなるはずですが、楽しい発見も多いでしょうが、時には相手に不快感を与えてしまうなどの失敗やカルチャーギャップもあるかもしれません。そのような悩みに直面したときは、遠慮なく講師に相談してください。必要に応じて助言をいたします。

5 週間の言語研修を通じて、アフリカの手話とろう者に対するよい理解者となっただくことを期待しています。

Qu'est-ce que la Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF)? フランス語圏アフリカ手話とは？

「フランス語圏アフリカ手話」は、西・中部アフリカのフランス語圏の国ぐにのろう者たちの間で広く話されている手話言語です。

西・中部アフリカでは、1950年代からろう教育事業を通じてアメリカ手話が伝播し始めましたが、それはやがて各地で変容し、英語圏諸国ではガーナ手話やナイジェリア手話を生みました。一方、1970年代からろう教育が普及し始めたフランス語圏諸国では、アメリカ手話に音声フランス語の特徴が加わった新しい手話言語が生まれ、ろう者たちによる教育事業の中で普及し、今日ではこの広い地域のろう者たちの間で日常的に用いられています。本研修で取り上げる「フランス語圏アフリカ手話」とは、このアメリカ手話と音声フランス語の言語接触の中で成立した、アフリカ生まれの比較的新しい手話言語です。

このような経緯から、フランス語圏アフリカ手話は、アメリカ手話との間に多くの共通語彙をもっています。一方で、フランス語の口型（口の形や動き）、つづり、語順を取り入れるなど、アメリカ手話には見られない特徴もさまざまにそなえています。また、食文化関連の語彙など、アフリカ固有の手話単語が数多く含まれていることも特徴のひとつです。

■言語名について

アメリカ手話と音声フランス語の言語接触の中で生まれたこの手話言語については、これまで「アメリカ手話」(Ethnologue)、「アメリカ手話をフランス語の語順で話している」(Lane et al. 1996)などと断片的に記されてきましたが、固有名が与えられていませんでした。

西アフリカのベナン共和国でろう者たちが編集した手話辞典が、この言語に関する唯一のまとまった文献です。そこでは「フランス語圏アフリカのろう者の手話 (Le langage des signes du sourd Africain Francophone)」と呼ばれています (Tamomo 1994)。これは確かに正確な呼び方ですが、固有の言語名として用いるには長過ぎるのが難点です。

この言語研修に先立つ調査の中で、現地のろう者たちとも協議の上、「フランス語圏アフリカ手話 (Langue des Signes d'Afrique Francophone [LSAF])」という言語名を提唱することとしました。この手話言語の普及と確立に尽力したアフリカのろう者牧師 Tamomo らの精神を受け継いだ名称として、本研修ではこの言語名を用いています。

なお、この言語は西・中部アフリカ諸国に広く分布し、各地のろう者たちの間で話されていますが、当然その中には地域による違い（方言）が見られます。本研修で学ぶのは「その中のカメルーン方言である」ということを念頭に置いてください。

また、アルジェリア、ジブチ、マダガスカルなど、フランス語が話されていてもこの手話言語が話されていないと考えられる地域もあります。この手話の分布が、音声フランス語の分布と完全に一致しているわけではないことにもご留意ください。

亀井伸孝. 2006.『アフリカのろう者と手話の歴史: A・J・フォスターの「王国」を訪ねて』東京: 明石書店.

La Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF), est la langue des signes utilisée par les sourds en Afrique francophone Occidentale et Centrale.

En Afrique Occidentale et Centrale, la Langue des Signes Américaine (ASL) fut introduite dans les années 1950 par l'éducation des enfants sourds. Au fur et à mesure, elle s'adapta à chaque environnement pour créer les Langues des Signes Ghanéenne et Nigérienne dans les pays anglophones. D'un autre côté, dans les pays francophones où l'éducation des sourds commença dans les années 1970, une nouvelle langue des signes apparut et se diffusa grâce aux sourds engagés dans l'éducation. Elle a les particularités de la Langue des Signes Américaine (ASL) avec les caractéristiques du français parlé. Aujourd'hui, les sourds l'utilisent couramment dans cette large région. La Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF) que nous étudierons dans cette formation linguistique, est cette nouvelle langue des signes née en Afrique de la combinaison de la Langue des Signes Américaine (ASL) et des caractéristiques du français parlé.

Dans ce contexte, La LSAF possède de nombreux termes communs avec la Langue des Signes Américaine (ASL). De plus, elle possède des caractéristiques que la Langue des Signes Américaine (ASL) ne possède pas : le mouvement et la forme des lèvres comme le français parlé, l'orthographe du français, l'ordre des mots, etc.

Elle contient aussi les particularités propres à l'Afrique, en particulier les termes relatifs à la culture d'alimentation.

Nom de la langue

Au sujet de cette langue née par la combinaison de la Langue des Signes Américaine (ASL) et des caractéristiques du français parlé, on l'écrit de façon fragmentaire comme «la Langue des Signes Américaine» (Ethnologue) ou bien «la Langue des Signes Américaine parlée à l'ordre des mots français» (Lane et al. 1996) jusqu'à maintenant, mais ne possède pas son nom propre. Le dictionnaire de la langue des signes rédigé par les sourds en République du Bénin en Afrique Occidentale, constitue l'unique article sur cette langue. Il est écrit «Le langage des signes du sourd Africain Francophone» (Tamomo 1994). Il s'agit effectivement du nom correct, mais il est pourtant trop long pour l'appeler ainsi.

Après concertation avec les sourds locaux durant l'enquête pour cette formation linguistique, j'ai proposé de la nommer «la Langue des Signes d'Afrique Francophone (LSAF)». Durant la formation, nous utilisons cette appellation comme le meilleur terme traduisant esprit du pasteur Tamomo et des autres sourds qui se sont consacré à la diffusion et à l'établissement.

Cette langue se répand largement en Afrique Occidentale et Centrale et est utilisée par les sourds, par contre, des différences existent forcément suivant les régions (dialectes). Mais gardez à l'esprit qu'il s'agit du dialecte camerounais.

Il y a quelques régions francophones supposées que cette langue n'est pas utilisée : L'Algérie, Djibouti, Madagascar, etc. Par conséquent, notez que la répartition de cette langue ne concorde pas complètement avec la francophonie (celle du français parlé).

Kamei, Nobutaka. 2006. *Histoire des sourds et des langues des signes en Afrique: Recherche sur le terrain dans le royaume dérivé d'Andrew J. Foster*. Tokyo: Akashi Shoten. [en japonais]

この研修では、カメルーン（フランス語圏）からろう者の講師を招いてフランス語圏アフリカ手話の基礎を学ぶとともに、アフリカのろう者の文化と歴史についての理解を深めます。授業では、この研修のために編集されたこのテキストを用います。また、2002～2008年にかけて、カメルーン（フランス語圏）現地で撮影された映像データに基づくDVDを配布します。

■DVDの内容

【動画コンテンツ】合計約3,300件、総時間約7時間40分の動画が収録されています。

レッスン (cours) : このテキストに納められている Leçon 0～Leçon 20 のすべての会話スキットおよび指文字と数を、約450件の動画で見ることができます。

文法 (grammaire) : 人称、肯定文、否定文、疑問文、命令文などの基礎的な文法事項を、約150件の動画で見ることができます。

会話表現 (conversation) : 「おはよう」「ありがとう」「さようなら」「いくら？」「トイレはどこ？」など、日常生活で便利な会話表現を、約110件の動画で見ることができます。

辞典 (dictionnaire) : 約2,600件の手話の語の動画を収録した辞典です。名詞、動詞、形容詞、アフリカの固有名詞（地名や人名）、ろう者の文化に深く関わる語などのジャンルにわたります。日本語さくいん約3,050項目（あいうえお順に配列）、フランス語さくいん約3,190項目（alphabet順に配列）から、対応する手話動画を検索することができます。

自然な会話 (bavardage) : 2人のろう者が自然なスピードでカメルーンの文化について語るシーンの動画2件（総時間57分）を収録しました。これは上級者向けです。

【概説】

フランス語圏アフリカ手話とは？ (Qu'est-ce que la LSAF ?) : この言語の概説をしています。

調査概要 (Résumé de recherche) : このDVDならびにテキストを作成するための言語調査票および調査地、調査期間などについて記しています。

DVDの凡例 (Comment utiliser ce DVD?) : DVDの使い方や記号について解説しています。

権利と使用法 (Copyright) : DVDの著作権などについて記しています。

■授業の言語と心がまえ

授業の解説では日本語および日本手話を用いますので、耳が聞こえる方も聞こえない方も受講できます。特定の言語の学習経験は問いませんが、以下の各点に留意してください。

- (1) フランス語との関わりが深い手話言語であることから、授業の中でフランス語の書きことばを用いることがあります。これまでフランス語の学習経験がない方も参加できるように配慮しますが、受講者にはフランス語の簡単な読み書きをあわせて学んでいただくことになります。
- (2) 手話をまったく学んだことがない方は、手話言語とろう者の文化に関する概説的な本を読むなど、各自で並行して学習をすることをおすすめします。
- (3) 本で手話を学ぶことはできません。なるべく生きた手話会話表現にふれることが重要です。言語研修中に、カメルーンから来たろう者の手話講師にどんどん質問をしてください。また、自習用にDVDを活用してください。

Présentation de l'édition 凡例

- 本書の使い方 -

フランス語圏アフリカ手話 (LSAF) には、正書法がありません。音声フランス語の影響下に成立したという関係の深さを考え、本書ではフランス語の語などを借用して表記しています。また、学習者の便宜を考え、日本語のラベルやフランス語のカタカナ表記を併用します。

■記号について

/.../

手話の語を指します。/chien/ は、chien (犬) を意味する特定の手話の語を指します。/犬/も同様です。

"..."

口型を指します。"chien" は、フランス語であたかも "chien" と発話しているかのごとく口が動くことを指します。"シアン" とカタカナ表記することもあります。ただし、口型はあくまで視覚的な表現手段のひとつですので、手話会話において実際に発声する必要はありません。

/アルファベの大文字/

指文字を指します。/C/H/I/E/N/ は、指文字で一字ずつ C-H-I-E-N とつづりを示すことを指します。手話会話であまり用いられない概念を表現する時にフランス語の語を借用したり、固有名詞を表現したりするときに、補足的に用います。ろう者どうしが指文字だけで会話することはありません。

/aaa/bbb/ccc/

/aaa/→/bbb/→/ccc/ の語順で、手話の語が連続的に表出されることを指します。たとえば、/chien/noir/venir/ であれば、/chien/→/noir/→/venir/ というふうに、ある文の中でこれらの語が続けて表出されることを示します。ラベルに日本語を用いる場合 (/犬/黒い/来る/) も同様です。ただし、口型はかならずしもそのラベルと同じとは限らないので、それをそのまま読むことはおすすめしません (/chien/noir/venir/ の口型は "chien noir vient" となります)。

■表記と口型について

本書では、LSAF の 1 つの例文を、6 種類の方法で併記しています。いずれも同じ文を指していますが、力点が異なります。

例

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| (1) LSAF 語順 (フランス語表記) : | /tu/partir/où/? |
| (2) LSAF 語順 (日本語表記) : | /君/出発する/どこ/? |
| (3) LSAF 口型 (フランス語表記) : | "tu pars où?" |
| (4) LSAF 口型 (日本語表記) : | "テュ・パール・ウ?" |
| (5) フランス語訳: | Où pars-tu? |
| (6) 日本語訳: | 君、どこへ行くの? |

■それぞれの記述方法の特徴

(1) LSAF 語順 (フランス語表記) : /tu/partir/où?/

LSAF の語順を、フランス語の語を用いたラベルにより示したものです。なお、ラベルを簡潔にするため、原則として名詞は単数形、動詞は不定詞単純形、形容詞は男性単数形 (いずれも辞書の見出し語となるもっともシンプルな形) を使っています。

(2) LSAF 語順 (日本語表記) : /君/出発する/どこ/?

LSAF の語順を、日本語の語を用いたラベルにより示したものです。それぞれの語の意味を、これで思い起こすことができるでしょう。ただし、「君、出発する、どこ?」というふうに、日本語を話しながら LSAF を表出することは決してしないでください。日本語の発話や概念にこだわってはいは、LSAF を正しく身につけることができません。(2) は、あくまで (1) の理解を助けるためのものです。

(3) LSAF 口型 (フランス語表記) : "tu pars où?"

LSAF の口型を、フランス語の語を借りて示したものです。(1) とよく似ていますが、フランス語の動詞活用 (※1) やエリジョン (※2) なども柔軟に取り入れられており、口の形や動き、リズムなどの点で、実際の自然な手話会話により近い表記となっています。フランス語としては少し奇妙な文に見えるかもしれませんが、LSAF においてはもっとも自然な表現です。

(4) LSAF 口型 (日本語表記) : "テュ・パール・ウ?"

(3) をカタカナ表記したものです。フランス語の初学者は、このカタカナ表記を手がかりに LSAF の口型やリズムを学ぶとよいでしょう。

(5) フランス語訳: OÙ pars-tu?

LSAF の文を、フランス語に訳したものです。文法的にはフランス語であって、LSAF ではありません。また、意識をしているケースもあり、語としても LSAF と一対一に対応しているとはかぎりません。

(6) 日本語訳: 君、どこへ行くの?

LSAF の文を、日本語に訳したものです。文法的には日本語であって、LSAF ではありません。また、意識をしているケースもあり、語としても LSAF と一対一に対応しているとはかぎりません。

(※1) 動詞活用

たとえば、/tu/partir/ (/君/出発する/) という語順の表現があるとき、ろう者の自然な LSAF においても、"tu partir" ("テュ・パルティール") というような、辞書の見出し語 (動詞の不定詞単純形) そのままの口型をすることはなく、ふつうは "tu pars" ("テュ・パール") というふうに、口型だけは主語にあわせて活用していることが多いのです。/partir/ の手の形や動きがまったく同じでも、主語の人称によって口型だけ活用しているという現象はたいへん興味深いことで、フランス語との関わりの深さを物語ります。このように、手話の語の配列 (1) だけでは表現しきれない口型の豊かさを示すために、(3) や (4) をあわせて示しています。

(※2) エリジョン

たとえば、/je/aimer/ (私/愛する) という語順の表現があるとき、ろう者の自然な LSAF においても、"je aime" ("ジュ・エム") と切れ切れの口型を示すのではなく、"j'aime" ("ジェム") という一続きの口型になります。これは、フランス語の特徴であるエリジョン（母音がふたつ続く時に、前の方を省略すること）の規則を踏襲したものと思われます。

■おすすめの学習法

LSAF の学習の上で便利だと考えられるのは、(1) と (4) です。(1) で手の動きと語順を覚え、(4) のカタカナ口型とともに表出するのが、スムーズに学習できる方法と思われます。フランス語を学んだことがあり、あるていど口の形や動きなどを知っている人は、(3) を手がかりに口型を学ぶのもよいと思います。ただし、実際にフランス語の発話をする必要はありません。

一方、フランス語になじみでない学習者が、(2) の日本語の口型や概念に頼って学ぶことはおすすめしません。日本語にとらわれていては LSAF を身につけることができません。あくまでも意味を確かめる参考ていどにとどめ、なるべく (4) のフランス語に近い口型になじむようにしてください。

また、フランス語既習者が、(5) のフランス語の口型や概念を手がかりにすることも、おすすめしません。(5) はあくまで LSAF をフランス語に意識したものであり、手話とは使用する語も、語順も、異なるケースがほとんどです。「自然なフランス語」に従うのではなく、「自然な LSAF」に従うように心がけてください。

■文法用語について

LSAF の文法はまだ研究の途上にあります。フランス語の特徴を多く反映していることを重視して、本書ではフランス語文法の用語を踏襲して記載することを試みています。

主語 *sujet* (S) 動詞 *verbe* (V)

通常、このふたつで $S+V(+\dots)$ といった文を構成します。なお、LSAF には動詞がない文型 (S+A) もあります。

属詞 *attribut* (A)

英文法でいう「補語」に当たります。主語の性質を示す形容詞や名詞が属詞となり、「…は…である」といった文を作ります。

直接目的補語 *complément d'objet direct* (COD)

英文法でいう「直接目的語」に当たります。「…を」と訳すことが多いものです。名詞がこの直接目的補語となり、「…は…を…する」といった文を作ります。

間接目的補語 *complément d'objet indirect* (COI)

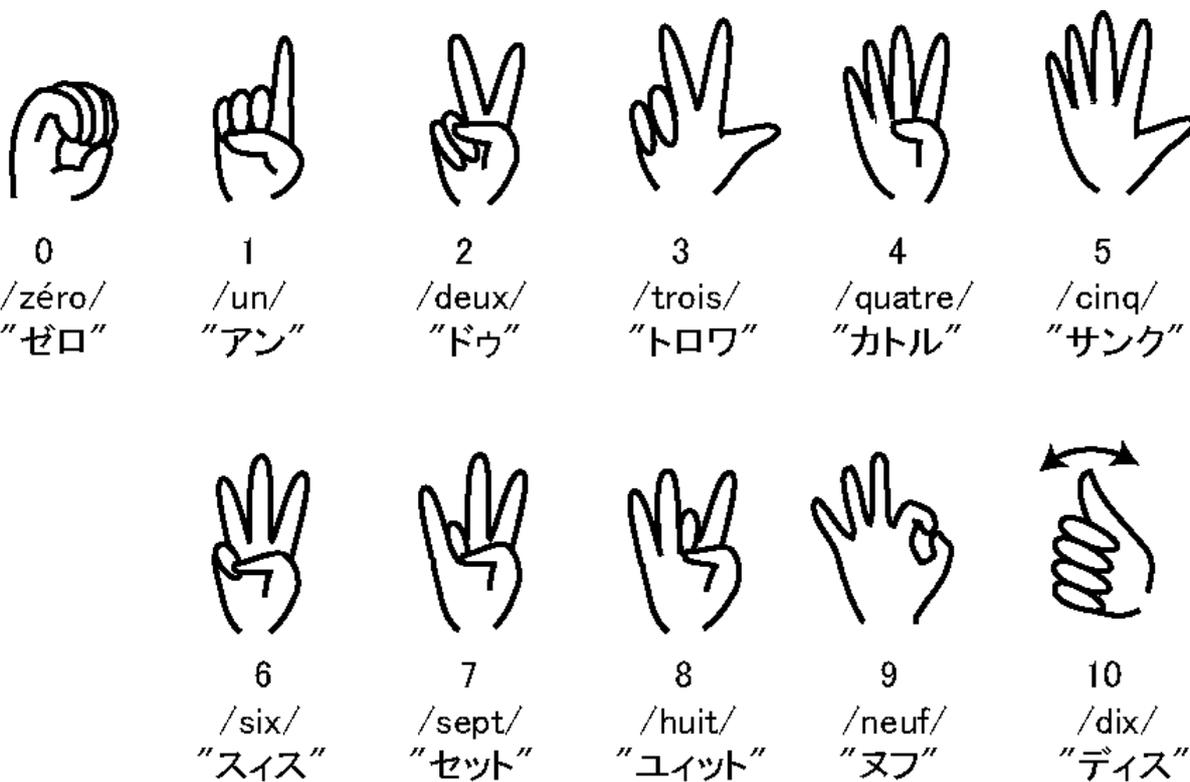
英文法でいう「間接目的語」に当たります。「…に」と訳すことが多いものです。名詞がこの直接目的補語となり、「…は…に…する」といった文を作ります。

Leçon 0 : Alphabet manuel et nombre

第0課 指文字と数

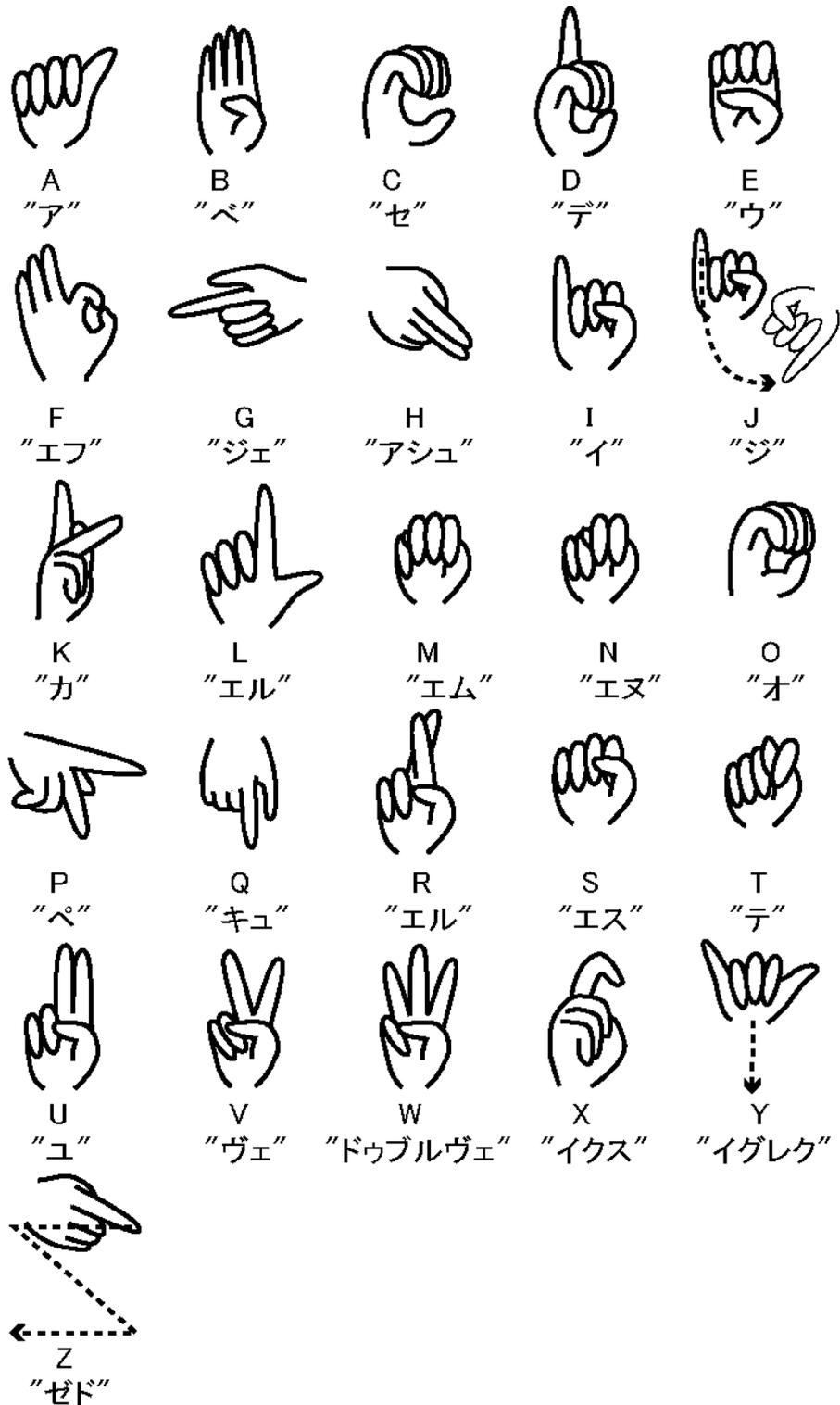
nombre (数)

- 基数詞の/0/〜/10/の表現を図で示します。
- 桁がさらに増えた場合の表現や、序数詞（第1 /1e/、第2 /2e/、第3 /3e/…）、数量をたずねる疑問詞を含む会話などについては、本課の中でとりあげます。
- DVD も参照してください（DVD>レッスン>0>数）。



alphabet manuel (指文字)

- 指文字/A/~/Z/の表現を図で示します。
- 指文字は、フランス語の語や固有名詞のつづりを表現する時に用いられます。具体的な表現のしかたは、第2課でとりあげます。
- DVD も参照してください (DVD>レッスン>0>指文字)。



Leçon 1 : "Bonjour!"

第1課「こんにちは」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun C : Charles

/bonjour/ /aéroport/	/こんにちは/ /空港/
J : /bonjour/ C : /bonjour/	/こんにちは/ /こんにちは/
J : /comment/tu/? C : /bien/ /comment/tu/?	/いかが/君/? /元気/ /いかが/君/?
J : /bien/ C : /bienvenue/Cameroun/	/元気/ /ようこそ/カメルーン/
J : /merci/beaucoup/ C : /allons/ma/maison/	/ありがとう/たくさん/ /行こう/私の/家/
J : /O/K/	/O/K/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche) ※口型の参考に (フランス語ではありません)

"bonjour" "aéroport"	"ボンジュール" "アエロポール"
J : "bonjour" C : "bonjour"	"ボンジュール" "ボンジュール"
J : "comment tu?" C : "bien" "comment tu?"	"コマン・テユ?" "ビアン" "コマン・テユ?"
J : "bien" C : "bienvenue Cameroun"	"ビアン" "ビアンヴニユ・カメルーン"
J : "merci beaucoup" C : "allons ma maison"	"メルシー・ボク" "アロン・マ・メゾン"
J : "OK"	"オーケー"

dialogue : français

J : Jun C : Charles

Leçon 1 : "Bonjour!"

(A l'aéroport)

J : Bonjour!

C : Bonjour!

J : Comment ça va?

C : Ça va bien! Comment?

J : Bien!

C : Bienvenue au Cameroun!

J : Merci beaucoup!

C : Allons chez moi!

J : OK.

dialogue : japonais

J : 淳 C : シヤルル

第1課「こんにちは！」

(空港で)

J : こんにちは！

C : こんにちは！

J : 元気？

C : 元気だよ！ 君は元気？

J : 元気！

C : カメルーンにようこそ！

J : どうもありがとう！

C : ぼくのうちに行こう！

J : オッケー。

Langue des Signes d'Afrique Francophone

nouveaux signes

/bonjour/	おはよう、こんにちは
/aéroport/	空港
/comment/	いかが、どのような
/bien/	元気、よく
/bienvenue/	ようこそ
/Cameroun/	カメルーン
/merci/	ありがとう
/beaucoup/	たくさん
/allons!/ /chez/ = /maison/	行こう！ …の家に、家
/OK/	オッケー

grammaire : "salut" (あいさつ)

この課では、LSAF の基本的なあいさつについて学びます。せまい意味の「文法」ではありませんが、手話になじむために、まずあいさつから始めましょう。

□ろう者とあいさつをしたり話したりするときは、相手の目を正視します。これは、世界中のろう者の間で共有されていると見られる慣習で、LSAF でも同様です。相手の顔に目を向けなかったり、会話の途中で目をそらしたりすると、「相手に興味がない」という誤ったメッセージを伝えるおそれがあります。

□あいさつの時間帯に気をつけてください。午前中は /bonjour/ ですが、正午を過ぎると /bonsoir/ になります。ちなみにこれは、西アフリカの聴者が話すフランス語会話でも同様です。「こんばんは」というよりは、午後に使われる「こんにちは」であり、英語の good afternoon に近い感覚です。

□LSAF には、/Bon appétit!/ (めしあがれ)、/Bon voyage!/ (よい旅を) など、フランス語の慣用表現に即した手話のあいさつが多く見られます。

exercices

- (1) グループを作り、出会い、別れ、お祝いなどのシチュエーションを考えて、さまざまなあいさつを試みましょう。
- (2) DVD の「会話表現」を見て、読み取りに慣れてみましょう。また、音声フランス語との共通点や相違点を探してみましょう。

culture あいさついろいろ

カメルーンでは、ろう者も聴者も同じく、ある集まりに加わる時には、その場にいる全員と一度ずつ握手をします。ですから集まりに人が加わると、あいさつに時間をかけることになります。

また、親友どうしの場合は、握手の手を離す時に親指と中指でパチンとはじくことがあります。聴者の場合はきれいな音を出すことがカッコいいこととされているようですが、ろう者もパチンときれいな音を出しているのです、どうしてそれができるのか、見ていて不思議に思われます。

ろう者の独特のあいさつとして、手の甲どうしをふれあわせる「乾杯」、机を叩く「めしあがれ」などが、アフリカ各地で見られます。

note -----

Leçon 2 : "Je m'appelle Jun."

第2課「私の名前は淳です」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/mon/nom/J/U/N/ /dans/voiture/taxi/	/私の/名前/J/U/N/ /…の中に/車/タクシー/
C : /ton/nom/quoi/?	/君の/名前/何/?
J : /mon/nom/J/U/N/	/私の/名前/J/U/N/
C : /ton/nom/signé/quoi/?	/君の/名前/手話/何/?
J : /mon/nom/signé/Jun/ /ton/nom/quoi/?	/私の/名前/手話/淳/ /君の/名前/何/?
C : /mon/nom/C/H/A/R/L/E/S/	/私の/名前/C/H/A/R/L/E/S/
J : /ton/nom/signé/quoi/?	/君の/名前/手話/何/?
C : /mon/nom/signé/Charles/	/私の/名前/手話/シャルル/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"mon nom J U N" "dans taxi"	"モン・ノン・ジ・ユ・エヌ" "ダン・タクスイ"
C : "ton nom quoi?"	"トン・ノン・クワ?"
J : "mon nom J U N"	"モン・ノン・ジ・ユ・エヌ"
C : "ton nom signé quoi?"	"トン・ノン・スィーニュ・クワ?"
J : "mon nom signe Jun" "ton nom quoi?"	"モン・ノン・スィーニュ・ジュン" "トン・ノン・クワ?"
C : "mon nom C H A R L E S"	"モン・ノン・セ・アッシュ・ア・エル・エル・ウ・エス"
J : "ton nom signe quoi?"	"トン・ノン・スィーニュ・クワ?"
C : "mon nom signe Charles"	"モン・ノン・スィーニュ・シャルル"

※例えば/J/U/N/と指文字で綴るときの口型は、会話例のように "ジ・ユ・エヌ" と一字ずつ区切られることもありますが、連続的に "ジュン" となることもしばしばです。

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 2 : "Je m'appelle Jun."

(Dans le taxi)

C : Comment t'appelles-tu?

J : Je m'appelle J-U-N.

C : Qu'est-ce que ton signe?

J : Mon signe est /Jun/. Comment t'appelles-tu?

C : Je m'appelle C-H-A-R-L-E-S.

J : Qu'est-ce que ton signe?

C : Mon signe est /Charles/.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第2課「私の名前は淳です」

(タクシーで)

C : 名前は？

J : ぼくの名前は淳。

C : サインネームは？

J : ぼくのサインネームは/淳/だよ。君の名前は？

C : ぼくはシャルル。

J : サインネームは？

C : ぼくのサインネームは/シャルル/だ。

nouveaux signes

/nom/	名前
/taxi/	タクシー
/signe/	手話
alphabet manuel (/A/, /B/, /C/, ... /Z/)	指文字 (/A/, /B/, /C/, ... /Z/)

grammaire : "alphabet manuel" (指文字)

この課では、LSAF の指文字について学びます (p15)。指文字は、手話の語としてない概念をフランス語から借用したり、固有名詞のつづりを示したりするときに使います。

□LSAF では、アメリカから伝播した指文字を用いているため、アメリカの指文字とほぼ同じです。ただし、口型は、エー、ビー、スィー…ではなく、フランス語風にア、ベ、セ…となりますので、フランス語口型とともに覚える習慣を付けてください (声を出す必要はありません)。

□フランスで用いられている指文字とは、/A/ /B/ /C/ など、似ている文字もありますが、/M/ /T/ /X/ など、異なる指文字もあります。もとをたどれば LSAF の指文字のルーツはフランスですが、アメリカ経由でほぼ 2 世紀ぶりに再びフランス語の世界に戻ってきたため、本家のフランスの指文字とは異なっている文字があります。

□フランス語に特有の文字 (é, à, ï, û, ç など) は、いずれもアクサンなどのない形 (e, a, i, u, c など) で表現します。必要に応じて、手首をひねったり空書したりすることで、脱落した情報を補うことがあります。

exercices

- (1) 指文字を覚え、自分の名前を表現してみましょう。
- (2) グループを作り、お互いに自己紹介してみましょう。
- (3) この課や前の課に出てきたフランス語の語を、指文字で表現する練習をしましょう。

culture サインネーム

ろう者どうしが会って自己紹介をする時は、名前のつづりだけでなく、ろう者たちの間でのみ通じる手話のニックネーム (サインネーム *nom en signe*) もあわせて披露するのがふつうです。世界各地でこの慣習が見られますが、LSAF の世界でも頻繁に見られます。

LSAF では、本来の名前の頭文字 (Evouna の /E/, Philippe の /P/, Innocent の /I/ など) の指文字の手形を織り込んで、サインネームを作ることが一般的です。時おり、別人であるにも関わらず同じサインネームがぶつかってしまい、「〇〇地方の A さんと、××地方の A さん」のように、説明をつけて区別することもあります。

新しい土地に調査に行って、現地風のサインネームを付けてもらおうと、仲間に入れてもらえたような気がして、研究者・訪問者としてはうれしいことこの上ありません。

note -----

Leçon 3 : "Je suis sourd."

第3課「私はろう者です」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/je/sourd/ /maison/Charles/	/私/ろう者/ /家/シャルル/
C : /tu/japonais/?	/君/日本人/?
J : /oui/je/japonais/	/はい/私/日本人/
C : /tu/sourd/?	/君/ろう者/?
J : /non/je/pas/sourd/ /je/entendant/	/いいえ/私/…ない/ろう者/ /私/聴者/
C : /tu/travail/quoi/?	/君/仕事/何/?
J : /je/étudiant/dans/université/ /tu/sourd/?	/私/学生/…の中に/大学/ /君/ろう者/?
C : /oui/je/sourd/ /je/camerounais/	/はい/私/ろう者/ /私/カメルーン人/
J : /tu/travail/quoi/?	/君/仕事/何/?
C : /je/enseignant/école/sourd/	/私/教員/学校/ろう者/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche) ※口型の参考に (フランス語ではありません)

"je sourd"	"ジュ・スール"
"maison Charles"	"メゾン・シャルル"
C : "tu japonais?"	"テュ・ジャポネ?"
J : "oui je japonais"	"ウイ・ジュ・ジャポネ"
C : "tu sourd?"	"テュ・スール?"
J : "non je pas sourd" "je entendant"	"ノン・ジュ・パ・スール" "ジュ・アンタンダン"
C : "tu travail quoi?"	"テュ・トラバーユ・クワ?"
J : "je étudiant dans université" "tu sourd?"	"ジュ・エテュディアン・ダン・ユニヴェルスイテ" "テュ・スール?"
C : "oui je sourd" "je camerounais"	"ウイ・ジュ・スール" "ジュ・カメルネ"
J : "tu travail quoi?"	"テュ・トラバーユ・クワ?"
C : "je enseignant école des sourds"	"ジュ・アンセニャン・エコール・デ・スール"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 3 : "Je suis sourd."

(Chez Charles)

C : Tu es japonais?

J : Oui, je suis japonais.

C : Tu es sourd?

J : Non, je ne suis pas sourd. Je suis entendant.

C : Qu'est-ce que ton travail?

J : Je suis étudiant de l'université. Tu es sourd?

C : Oui, je suis sourd. Je suis camerounais.

J : Qu'est-ce que ton travail?

C : Je suis enseignant de l'école des sourds.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第3課「私はろう者です」

(シャルルの家で)

C : 君は日本人?

J : うん、日本人。

C : ろう者?

J : いえ、ぼくはろう者ではないよ。ぼくは聴者なんだ。

C : 仕事は?

J : 大学生だよ。君はろう者?

C : うん、ぼくはろう者。カメルーン人だよ。

J : 仕事は?

C : ろう学校の教員をしているんだ。

nouveaux signes

/sourd/	ろう者、ろうの
/japonais/	日本人、日本人の
/oui/	はい
/non/	いいえ
/entendant/	聴者、耳が聞こえる
/travail/	仕事
/étudiant/	学生
/université/	大学
/camerounais/	カメルーン人、カメルーン人の
/enseignant/	教員
/école/	学校
/école des sourds/	ろう学校

grammaire : "S+V, S+A, oui/non" (主語+動詞、主語+属詞、はい/いいえ疑問文)

この課では、LSAF の基本文型である S+V (主語+動詞)、S+A (主語+属詞)、およびそれらから作られる oui/non (はい/いいえ) で答えられる疑問文について学びます。

□S+V は、もっとも基本的な文型です。S+V の語順となります。

/je/marcher/	Je marche.	私は歩く。
/je/dormir/	Je dors.	私は眠る。

□S+A も、基本的な文型です。主語の性質を、ほかの名詞や形容詞で説明します。フランス語では être (「…である」、英語での be 動詞に当たる) を用いますが、LSAF はそのような動詞をもち、直接 S+A で文を作ります。

/je/sourd/	Je suis sourd.	私はろう者です。
/tu/étudiant/	Tu es étudiant.	君は学生です。

□oui/non で答えられる疑問文は、肯定文に、疑問特有の表情と文末の静止を伴わせることで作ることができます。講師の表現および DVD の動画で、表情と静止の様子を学びます。疑問文に対しては、/oui/ /non/で答えます。

/tu/sourd/	Tu es sourd.	君はろう者です。
/tu/sourd/? (+表情+静止)	Tu es sourd?	君はろう者ですか？
/oui/	Oui.	はい。
/non/	Non.	いいえ。

exercices

- (1) /歩く/ /泳ぐ/ /眠る/ /走る/ など、身体動作に関わる動詞を調べ、フランス語口型とともに S+V の例文を作ってみましょう。
- (2) /ろう者/ /聴者/、あるいは職業に関する語を使って、S+A の例文を作ってみましょう。
- (3) (1) や (2) の oui/non 疑問文を作り、たずね合ってみましょう。

culture 日本のイメージ

手話の会話では、初対面のときに相手がろう者かどうかをたずねます。これは、手話を第一言語としているかどうかを確かめるといった意味合いがあり、とくに失礼なことではありません。耳の聞こえる人たちの間では、(相手の障害の話題にふれてはいけない…)などと想像することがありますが、そのような心配は要りません。

アフリカに滞在していると、「シノワ(中国人)か?」と聞かれることがしばしばあります。もちろん「ジャポネ」だと答えますが、一般的に日本は、自動車や家電の企業名、あるいはアフリカ諸国での学校建設事業のイメージとともにとらえられています。サッカー好きのアフリカの人たちの間では、日韓共催のワールドカップや著名な日本人サッカー選手の名前も知られています。

アフリカのろう者間での日本のイメージもほぼそれに重なりますが、それらに加え、日本人ろう者が留学などで国際的に活躍していること、ろう者のバックパッカーたちがいること、JICAによるろう者リーダー研修事業や、途上国のろう者に奨学金を給付している民間団体の事業などが話題に上ります。

note -----

Leçon 4 : "Il y a beaucoup de fruits."

第4課「果物がたくさんあります」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/il y a/beaucoup/fruit/ /dans/marché/	/…がある/たくさん/果物/ /…の中に/市場/
C : /regarder/il y a/beaucoup/fruit/ J : /vrai/ /il y a/papaye/ananas/mangue/ avocat/ /il y a/orange/? C : /oui/orange/là/là/là/ J : /il y a/tomate/? C : /non/il y a/pas/tomate/ici/ /là-bas/il y a/tomate/ J : /il y a/pas/pomme de terre/? C : /oui/il y a/ /voir/ici/pomme de terre/ J : /il y a/pas/gâteau/? C : /non/il y a/pas/gâteau/marché/ici/ /il y a/créer/baguette/là-bas/	/見る/…がある/たくさん/果物/ /本当の/ /…がある/パイパイ/パイナップル/マン ゴー/アボカド/ /…がある/オレンジ/? /はい/オレンジ/そこ/そこ/そこ/ /…がある/トマト/? /いいえ/…がある/…ない/トマト/ここ/ /あそこ/ …がある/トマト/ /…がある/…ない/ジャガイモ/? /はい/…がある/ /見る/ここ/ジャガイモ/ /…がある/…ない/ケーキ/? /いいえ/…がある/…ない/ケーキ/市場/ここ/ /…がある/作る/フランスパン/あそこ/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"il y a beaucoup fruit" "dans marché"	"イリヤ・ボク・フリユイ" "ダン・マルシェ"
C : "regarde il y a beaucoup fruit" J : "vrai" "il y a papaye ananas mangue avocat" "il y a orange?" C : "oui orange là là là" J : "il y a tomate?" C : "non il y a pas tomate ici" "là-bas il y a tomate" J : "il y a pas pomme de terre?" C : "oui il y a" "vois ici pomme de terre" J : "il y a pas gâteau?" C : "non il y a pas gâteau marché ici" "il y a boulangerie là-bas"	"リガルド・イリヤ・ボク・フリユイ" "ヴレ" "イリヤ・パイパイ・アナナ・マング・アヴォカ" "イリヤ・オランジュ?" "ウイ・オランジュ・ラ・ラ・ラ" "イリヤ・トマツ?" "ノン・イリヤ・パ・トマツ・イスイ" "ラバ・イリヤ・トマ ツ" "イリヤ・パ・ポム・ドゥ・テール?" "ウイ・イリヤ" "ヴォア・イスイ・ポム・ドゥ・テール" "イリヤ・パ・ガトー?" "ノン・イリヤ・パ・ガトー・マルシェ・イスイ" "イリヤ・ ブーランジェリ・ラバ"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 4 : "Il y a beaucoup de fruits."

(Au marché)

C : Regarde! Il y a beaucoup de fruits.

J : Vraiment! Il y a une papaye, un ananas, une mangue, un avocat ... Il y a une orange?

C : Oui, l'orange est là.

J : Il y a une tomate?

C : Non, il n'y a pas de tomate ici. Il y en a à l'autre côté.

J : Il n'y a pas de pomme de terre?

C : Si, il y en a! Voici la pomme de terre.

J : Il n'y a pas de gâteau?

C : Non, il n'y a pas de gâteau au marché. Il y en a dans la boulangerie.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第4課「果物がたくさんあります」

(市場で)

C : 見てごらん! 果物がたくさんあるよ。

J : ほんとだ! パパイア、パイナップル、マンゴー、アボカド... オレンジはある?

C : うん、オレンジはそこにあるよ。

J : トマトは?

C : いや、トマトはここにはない。トマトは別の所にあるよ。

J : ジャガイモはない?

C : いや、あるよ! ほら、ここにある。

J : ケーキはないのかな?

C : うん、市場にケーキはないよ。パン屋にあるね。

nouveaux signes

/il y a .../	…がある
/fruit/	果物
/marché/	市場
/regarder/	見る
/vraiment/	本当に
/papaye/	パパイヤ
/ananas/	パイナップル
/mangue/	マンゴー
/avocat/	アボカド
/tomate/	トマト
/pomme de terre/	ジャガイモ
/gâteau/	ケーキ、お菓子
/boulangerie/	パン屋

grammaire : "Il y a / Il n'y a pas" (ある／ない)

この課では、LSAF の基本的な構文である、Il y a (…がある) および Il n'y a pas (…がない) について学びます。

□/Il y a/ (…がある) というのは、非常によく用いられる構文です。/avoir/ (もつ) という動詞と同じ手型ですが、"アヴォワール"という口型を伴うことはなく、通常、口型は"イリヤ"です。または、単に"ア"という口型になることもしばしばです。また、前の課で学んだ疑問文特有の表情と静止を伴うことで、疑問文にすることができます。それに対して、/oui/ /non/で答えます。

/il y a/tomate/	Il y a une tomate.	トマトがあります。
/il y a/tomate/? (+表情+静止)	Y a-t-il une tomate?	トマトはありますか？

□/Il y a/pas/というふうに、否定の/pas/ (…ない) を続けることで、「…がない」という構文を作ります。また、肯定文と同様、これに対して表情などを伴わせることで、否定疑問文を作ることができます。

/il y a/pas/tomate/	Il n'y a pas de tomate.	トマトがありません。
/il y a/pas/tomate/? (+表情+静止)	Il n'y a pas de tomate?	トマトはないのですか？

□否定疑問「…ありませんか？」に対する回答として、フランス語であれば si (いいえ、あります)、non (はい、ありません) が用いられますが、LSAF では/oui/と/non/を用います。

/il y a/pas/tomate/? (+表情+静止)	Il n'y a pas de tomate?	トマトはないのですか？
/oui/il y a/	Si, il y en a.	いいえ、あります。
/non/il y a/pas/	Non, il n'y en a pas.	はい、ありません。

exercices

- (1) 食べ物や道具など、身近なものの手話を調べ、/il y a/構文、/il y a/pas/構文の例を作ってみましょう。
- (2) それぞれの疑問文を作り、グループの中で質問し合ひましょう。とくに、否定疑問に対する回答の練習をしてください。

culture 市場で手話を学ぶ

市場は、アフリカの楽しさの詰まった場所の一つです。食物、動植物、日常道具、価格、いろいろな要素から、人びとの暮らしぶりや息づかいが伝わってきます。もっとも、肌の白っぽい人（アフリカでは日本人も「白人 **les Blancs**」と見なされます）は目立つので、スリなどの標的にされる危険もありますから、現地の人々の助言を聞きながら行動するのがよいでしょう。

私はアフリカ諸国で、ろう者の友人たちと市場歩きをしながら手話の勉強をするということをよくします。現地の食文化などについて、現物を見ながら地元の人に聞くのが、ことばを教わる上で何よりもよい方法だと実感しています。

時には、詳細な調理の方法まで手話で説明してもらえることがあります。そうしたネタをいくつかメモしておき、後でビデオカメラの前で再現してもらおうと、地域の文化が溶け込んだ、他では得がたい手話語りを撮らせてもらえることになるのです。

note -----

Leçon 5 : "Les Camerounais mangent le ndolé."

第5課「カメルーン人はンドレを食べます」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/Camerounais/manger/ndolé/ /dans/restaurant/manger/	/カメルーン人/食べる/ンドレ/ /…の中に/レストラン/食べる/
C : /tu/connâître/ça/?	/君/知っている/それ/?
J : /oui/je/connâître/ /ça/riz/	/はい/私/知っている/ /それ/米/
C : /Japonais/manger/riz/?	/日本人/食べる/米/?
J : /oui/Japonais/aimer/manger/riz/ /Camerounais/aimer/aussi/manger/riz/?	/はい/日本人/…が好きだ/食べる/米/ /カメルーン人/…が好きだ/…も/食べる/米/?
C : /oui/ /tu/connâître/ça/?	/はい/ /君/知っている/それ/?
J : /non/je/connâître/pas/	/いいえ/私/知っている/…ない/
C : /ça/N/D/O/L/E/ /ça/signe/ nourriture/ndolé/ /Camerounais/ manger/ndolé/beaucoup/beaucoup/	/それ/N/D/O/L/E/ /それ/手話/食べ物/ンド レ/ /カメルーン人/食べる/ンドレ/たくさん/ たくさん/
J : /je/voir/ndolé/premier/fois/ /ah/amer/	/私/見る/ンドレ/第1/…回/ /ああ/苦い/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"Camerounais mangent ndolé" "dans restaurant"	"カメルネ・マンジュ・ンドレ" "ダン・レストラン"
C : "tu connais ça?"	"テュ・コネ・サ?"
J : "oui je connais" "ça riz"	"ウイ・ジュ・コネ" "サ・リ"
C : "Japonais mangent riz?"	"ジャポネ・マンジュ・リ?"
J : "oui Japonais aiment manger riz" "Camerounais aiment aussi manger riz?"	"ウイ・ジャポネ・エム・マンジェ・リ" "カメルネ・エ ム・オスイ・マンジェ・リ?"
C : "oui" "tu connais ça?"	"ウイ" "テュ・コネ・サ?"
J : "non je connais pas"	"ノン・ジュ・コネ・パ"
C : "ça N D O L E" "ça signe ndolé" "Camerounais mangent ndolé beaucoup beaucoup"	"サ・エヌ・デ・オ・エル・ウ" "サ・スィーニュー・ンドレ " "カメルネ・マンジュ・ンドレ・ボク・ボク"
J : "je vois ndolé première fois" "ah amer"	"ジュ・ヴォア・ンドレ・プルミエル・フォア" "ア・アメール"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 5 : "Les Camerounais mangent le ndolé."

(Au restaurant)

C : Tu connais ça?

J : Oui, je connais. C'est du riz.

C : Les Japonais mangent du riz?

J : Oui, les Japonais aiment du riz! Les Camerounais aiment aussi manger du riz?

C : Oui! Tu connais ça?

J : Non, je ne connais pas.

C : C'est le N-D-O-L-E. Son signe est /ndolé/. Les Camerounais mangent beaucoup de ndolé.

J : Je vois le ndolé pour la première fois. Ah, c'est amer!

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第5課「カメルーン人はンドレを食べます」

(レストランで)

C : これ知ってる?

J : うん、知ってるよ。これ、お米でしょ。

C : 日本人は米を食べるの?

J : うん、日本人は米食が好きだよ。カメルーン人も米を食べるのは好き?

C : うん! これは知ってる?

J : いや、知らない。

C : これはンドレというんだ。手話では/ンドレ/。カメルーン人はンドレをととてもよく食べるんだ。

J : ンドレって初めて見たよ。うわあ、苦い!

nouveaux signes

/manger/	食べる
/ndolé/	ンドレ (植物名、食材)
/restaurant/	レストラン
/connaître/	知る
/riz/	コメ
/aimer/	愛する、…が好きだ
/voir/	見る
/premier/	第一の
/fois/	…回
/première fois/	初めて
/amer/	苦い

grammaire : "S+V+COD" (主語+動詞+直接目的補語)

この課では、LSAF の基本文型である S+V+COD (主語+動詞+直接目的補語) について学びます。

□S+V+COD (英語で言う S+V+O) は、きわめて一般的に見られる文型です。ほとんどの場合はこの語順ですが、強調などの意味を込めて、COD+S+V という語順をとることがあります。また、oui/non 疑問文を作ることができるのも、これまでと同様です。

/tu/manger/ndolé/	Tu manges le ndolé.	君はンドレを食べる。
/ndolé/tu/manger/	Tu manges le ndolé.	ンドレを、君は食べる。
/tu/manger/ndolé/? (+表情+静止)	Est-ce que tu manges le ndolé?	君はンドレを食べる?
/oui/	Oui.	はい。
/non/	Non.	いいえ。

□人称代名詞が COD になったときの語順も、基本的には S+V+COD のままです。フランス語のように、S+COD+V と、動詞の前に置く必要は必ずしもありません。ただし、動詞の前に置いたら誤りだということでもなく、そのような用法も許容されています (その場合、音声フランス語に近い話し方だというニュアンスが感じられます)。

/je/aimer/toi/	Je t'aime.	私は君を愛している。
/je/te/aimer/	Je t'aime.	私は君を愛している。

□否定文「…しません」、否定疑問文「…ませんか?」、それに対する回答も、これまで学んだのと同様です。

/tu/manger/pas/ndolé/	Tu ne manges pas de ndolé?	君はンドレを食べない。
/tu/manger/pas/ndolé/? (+表情+静止)	Tu ne manges pas de ndolé?	君はンドレを食べない?
/oui/	Si.	いいえ、食べます。
/non/	Non.	はい、食べません。

exercices

- (1) /食べる/ /飲む/ /買う/ /見る/ など、直接目的補語をとるさまざまな動詞を調べ、身近な事物と組み合わせた例文を作ってみましょう。
- (2) それら例文をもとに、疑問文、否定文、否定疑問文を作って、グループで会話練習をしてみましょう。

culture 食事の風景

レストランも、文化やことばの調査における宝庫です。食文化研究の専門家でなくとも、必ず一日何度かは現地の物を食べなければいけませんから、どうせなら調査もかねてと考え、よく食堂で写真を撮ったり、現地の手話や音声言語での呼称、調理法などを教えてもらったりします。

西アフリカの人びとの食習慣として、素手で料理をいただくことがあります。決して粗野な食べ方なのではなく、片手をきれいに洗い、そばがきのような粉をお湯で練った主食を器用に丸め、スープやソースに浸してひらりひらりと美しく食べます。食べ終わった時には主食とスープが同時になくなって、皿にベタベタと汁が残りません。食事を終えたらまたきれいに手を洗い、仕事などに戻ります。素手での食事の初心者として、私はいつも粉を丸くちぎれず、皿をベタベタに汚し、最後にスープだけが大量に余るという、何ともみっともない食べ方をしてきました。郷に入りては郷に従え、素手で美しく食べられるようになりたいものです。

ところでアフリカのろう者たちは、片手でこのように食べているとき、どのように話すのでしょうか。ある時、ろう者たちと一緒に昼ご飯を食べながら注意深く見ていたら、右手で主食を丸めつつ、空いている左手で手話を話していました。日本のろう者は、箸を手話の一部として使うことがあります。食事中的手話会話というのは、まさしくろう文化の多様性を見せてくれる場面なのかもしれません。

note -----

Leçon 6 : "Je ne bois pas de bière."

第6課「私はビールを飲みません」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun C : Charles

/je/boire/pas/bière/ /bar/	/私/飲む/…ない/ビール/ /バー/
J : /ah/chaud/geste/ C : /oui/maintenant/sec/	/ああ/暑い/ジェスチャー/ /はい/今/乾燥する/
J : /je/soif/ /boire/quelque chose/bar/? C : /pas/problème/	/私/喉が渴く/ /飲む/何か/バー/? /…ない/問題/
J : /tu/boire/bière/? C : /non/je/boire/pas/bière/ /je/boire/ coca/	/君/飲む/ビール/? /いいえ/私/飲む/…ない/ビール/ /私/飲む/コー ラ/
J : /O/K/ /tu/aimer/pas/bière/? C : /non/je/aimer/pas/bière/parce que/ amer/	/O/K/ /君/…が好きだ/…ない/ビール/? /いいえ/私/…が好きだ/…ない/ビール/なぜなら/ 苦い/
J : /tout/Camerounais/boire/pas/bière/? C : /oui/beaucoup/Camerounais/aimer/ boire/boire/ /mais/je/boire/pas/	/すべての/カメルーン人/飲む/…ない/ビール/? /はい/たくさん/カメルーン人/…が好きだ/飲む/飲 む/ /しかし/私/飲む/…ない/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"je bois pas bière" "bar"	"ジュ・ボワ・パ・ビエール" "バー"
J : "ah chaud" C : "oui maintenant sec"	"ア・ショー" "ウイ・マンテナン・セック"
J : "je soif" "boit quelque chose bar?" C : "pas de problème"	"ジュ・ソワフ" "ボワ・ケルク・ショーズ・バー?" "パ・ドゥ・プロブレム"
J : "tu bois bière?" C : "non je bois pas bière" "je bois coca"	"テュ・ボワ・ビエール・?" "ノン・ジュ・ボワ・パ・ビエール" "ジュ・ボワ・コカ"
J : "OK" "tu aimes pas bière?" C : "non j'aime pas bière parce que amère"	"オーケー" "テュ・エム・パ・ビエール?" "ノン・ジェム・パ・ビエール・パスク・アメール"
J : "tout Camerounais boivent pas bière?" C : "oui beaucoup Camerounais aiment boire boire" "mais je bois pas"	"トゥー・カメルネ・ボワヴ・パ・ビエール?" "ウイ・ボク・カメルネ・エム・ボワール・ボワール" "メ・ジュ・ボワ・パ"

dialogue : français

J : Jun C : Charles

Leçon 6 : "Je ne bois pas de bière."

(Au bar)

J : Ah, il fait chaud!

C : Oui, maintenant c'est la saison sèche.

J : J'ai soif! On boit quelque chose au bar?

C : Pas de problème!

J : Tu bois de la bière?

C : Non, je ne bois pas de bière. Je bois du coca.

J : OK. Tu n'aimes pas de bière?

C : Non, je n'aime pas de bière parce que c'est amère.

J : Tous les Camerounais ne boivent pas de bière?

C : Si, beaucoup de Camerounais aiment en boire. Mais je n'en bois pas.

dialogue : japonais

J : 淳 C : シャルル

第6課「私はビールを飲みません」

(バーで)

J : あー、暑いな!

C : うん、いま乾季だからね。

J : のどがかわいた! バーで何か飲もうか?

C : いいよ!

J : ビール飲む?

C : いや、ぼくはビールは飲まない。コーラをもらうよ。

J : オッケー。ビールは嫌いなの?

C : うん、ビールは苦いから好きじゃない。

J : カメルーンの人たちはみんなビールは飲まないの?

C : いやいや、ビールが好きなカメルーン人はたくさんいるよ。でも、ぼくは飲まないんだ。

nouveaux signes

/ne ... pas/	…ない
/boire/	飲む
/bière/	ビール
/bar/	バー
/chaud/	暑い
/maintenant/	今
/saison sèche/	乾季
/soif/	のどがかわく
/problème/	問題
/Pas de problème!/ /coca/ /parce que/	問題ないよ、かまわないよ コココーラ なぜなら…

grammaire : "négation" (否定文)

この課では、LSAF の否定文について学びます。

□否定については、これまでも少しずつ取り上げてきました。ここでは、いくつかのニュアンスの異なる否定文を作ります。

/je/boire/bière/	Je bois de la bière.	私はビールを飲む。
/je/boire/pas/bière/	Je ne bois pas de bière.	私はビールを飲まない。
/je/boire/jamais/bière/	Je ne bois jamais de bière.	私はビールを決して飲まない。
/je/boire/plus/bière/	Je ne bois plus de bière.	私はもうビールを飲まない。
/je/boire/pas/encore/bière/	Je ne bois pas encore de bière.	私はまだビールを飲まない。

□それぞれについて、否定疑問文を作ることができます（表情などの疑問標識はこれまでと同様なので、以後は「?」に含める形で略記します）。

/tu/boire/jamais/bière/?	Tu ne bois jamais de bière?	君はビールを決して飲まないの？
/tu/boire/plus/bière/?	Tu ne bois plus de bière?	君はもうビールを飲まないの？
/tu/boire/pas/encore/bière/?	Tu ne bois pas encore de bière?	君はまだビールを飲まないの？

exercices

- (1) 自分の好きな食物や動物、趣味など、逆に嫌いな食物や動物、できごとなどを列記して、手話で表現する方法を調べます。/食べる/ /見る/ /する/などの動詞を使い、「私は…をする」「私は…をしない」「私は…を決してしない」「私は…をもうしない」など、否定文のヴァリエーションを練習してみましょう。
- (2) グループ内の相手の好きな物、嫌いな物をもとに、否定疑問文を作ったずね合いましょう。

culture バーで一服

熱帯では、冷たい飲み物が一番！ というわけで、アフリカの町まちには、冷たい飲み物を提供するお店が数多くあります。ここでご紹介した Bar というのは、日本の「バー」のイメージとは少し違い、通りにも椅子を出してビールやジュースなどを出す、オープンなカフェのイメージに近いでしょう。客の不信を招かないために、店員は冷たく冷えた瓶を出してきて、客の目の前で栓を抜きます。それを瓶のままラップ飲みするのが、庶民的なスタイルです。オープンな場なので、外のサンドイッチ屋が軽食を売りに来ます。そういうものを買って持ち込むのも OK です。

ろう者のたまり場になっているバーもあります。そういう所には、仕事帰りのろう者が立ち寄ってビールを一杯やって帰るといったような光景が見られます。ろう者たちの貴重な情報交換の場になっていることは、言うまでもありません。

各国のビールの細かい銘柄ひとつひとつに、固有の手話があります。私は行った先ざきでビールのラベルを収集していますが、それはひとつずつ、新しいビールの銘柄の手話を教えてもらうことでもあるのです。

思い起こせば、日本手話に出会った時から、私は焼き鳥屋でろう者に囲まれつつ、手話のしごきを受けたのでした。そのスタイルは、結局どこに行っても変わっていないのかもしれませんが。

note -----

Leçon 7 : "Qui est cet homme?"

第7課「この人はだれですか？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/cet/homme/qui/? /maison/Charles/	/その/人/だれ/? /家/シャルル/
C : /viens/s'asseoir/là/ /regarder/T/V/ J : /cet/homme/qui/?	/来い/座る/そこ/ /見る/T/V/ /その/人/だれ/?
C : /tu/connaitre/pas/? /il/président/ Cameroun/	/君/知っている/…ない/? /彼/大統領/カメルーン/
J : /son/nom/quoi/?	/彼の/名前/何/?
C : /son/nom/P/A/U/L/B/I/Y/A/ /son/ signe/Paul Biya/	/彼の/名前/P/A/U/L/B/I/Y/A/ /彼の/手話 /ポール・ビヤ/
J : /je/comprendre/	/私/分かる/
C : /oublier/pas/son/nom/ /il/personne/ important/Cameroun/	/忘れる/…ない/彼の/名前/ /彼/人/重要/カメルーン/
J : /il/communiquer/avec/qui/?	/彼/コミュニケーションする/…と/だれ/?
C : /cet/homme/Président/France/ /son/ nom/S/A/R/K/O/Z/Y/ /son/signe/ Sarkozy/	/その/人/大統領/フランス/ /彼の/名前 /S/A/R/K/O/Z/Y/ /彼の/手話/サルコジ/
J : /tu/connaitre/premier/ministre/Japon/ qui/?	/君/知っている/第1の/大臣/日本/だれ/?
C : /non/je/connaitre/pas/ /qui/?	/いいえ/私/知っている/…ない/ /だれ/?
J : /premier/ministre/Japon/nom/F/U/K/U/ D/A/ /son/signe/Fukuda/	/第1の/大臣/日本/名前/F/U/K/U/D/A/ /彼の の/手話/福田/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"cet homme qui?" "maison Charles"	"セツム・キ?" "メゾン・シャルル"
C : "viens t'asseoir là" "regarde TV" J : "cet homme qui?"	"ヴィアン・タソワール・ラ" "リガルド・テ・ヴェ" "セツム・キ?"
C : "tu connais pas?" "il président Cameroun"	"テュ・コネ・パ?" "イル・プレズィダン・カメルーン"
J : "son nom quoi?"	"ソン・ノン・クワ?"
C : "son nom P A U L B I Y A" "son signe Paul Biya"	"ソン・ノン・ペ・ア・ユ・エル・ベ・イ・イグレク・ア" "ソン・スィーニュ・ポール・ビヤ"
J : "je comprends"	"ジュ・コンプラン"
C : "oubliez pas son nom" "il personne importante Cameroun"	"ウブリ・パ・ソン・ノン" "イル・ペルソン・アンポル タント・カメルーン"
J : "il communique avec qui?"	"イル・コムニク・アヴェク・キ?"
C : "cet homme Président France" "son nom S A R K O Z Y"	"セツム・プレズィダン・フランス" "ソン・ノン・エ ス・ア・エル・カ・オ・ゼッド・イグレク"

"son signe Sarkozy"	"ソン・スィーニュー・サルコジ"
J : "tu connais premier ministre Japon qui?"	"テュ・コネ・プルミエ・ミニストル・ジャポン・キ?"
C : "non je connais pas" "qui?"	"ノン・ジュ・コネ・パ" "キ?"
J : "premier ministre Japon nom F U K U D A"	"プルミエ・ミニストル・ジャポン・ノン・エフ・ユ・カ・
"son signe Fukuda"	ユ・デ・ア" "ソン・スィーニュー・フクダ"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 7 : "Qui est cet homme?"

(Chez Charles)

C : Viens t'asseoir! Regarde la télévision!

J : Qui est cet homme?

C : Tu ne le connais pas? Il est le Président du Cameroun.

J : Comment s'appelle-t-il?

C : Il s'appelle P-A-U-L B-I-Y-A. Son signe est /Paul Biya/.

J : Je comprends.

C : N'oublie pas son nom! Il est la personne importante au Cameroun.

J : Avec qui cause-t-il?

C : Cet homme est le Président de la France. Son nom est S-A-R-K-O-Z-Y. Son signe est /Sarkozy/.

J : Tu connais qui est le Premier Ministre du Japon?

C : Non, je ne connais pas. Qui?

J : Le Premier Ministre du Japon s'appelle F-U-K-U-D-A. Son signe est /Fukuda/.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第7課「この人はだれですか？」

(シャルルの家で)

C : こっちに来てすわって! テレビを見てごらん!

J : この人はだれ?

C : 知らないの? カメルーンの大統領だよ。

J : 名前は?

C : ポール・ビヤ。手話名は/ポール・ビヤ/。

J : 分かった。

C : 忘れちゃだめだよ。この人はカメルーンの重要な人物なんだから。

J : だれと話してるのかな?

C : この人はフランスの大統領。サルコジっていう人だよ。手話名は/サルコジ/。

J : 日本の首相はだれか知ってる?

C : いや、知らない。だれ?

J : 日本の首相はフクダっていうんだ。手話は/福田/だよ。

nouveaux signes

/qui/	だれ
/homme/	人、男性
/venir/	来る
/Viens!/ /s'asseoir/	おいで! 座る
/télévision/	テレビ
/président/	大統領
/Paul Biya/	ポール・ビヤ (カメルーンの大統領)
/comprendre/	分かる、理解する
/oublier/	忘れる
/personne/	人
/important/	重要な
/avec/	…と
/causer/	しゃべる
/France/	フランス
/Sarkozy/	サルコジ (フランスの大統領)
/ministre/	大臣
/Premier Ministre/	総理大臣
/Japon/	日本
/Fukuda/	福田 (日本の首相)

grammaire : "impératif, qui" (命令文、だれ)

この課では、LSAF の命令文、疑問詞/qui/ (だれ) およびそれに関連する表現について学びます。

□命令文は主語を省いた V (動詞) で作ります。主語を伴うこと (S+V) もあります。/s'il vous plaît/ を付けて、丁寧な依頼にすることができます。

/manger/	Mange!	食べろ!
/tu/manger/	Mange!	食べろ!
/s'il vous plaît/manger/	Mangez, s'il vous plaît!	どうぞ食べてください。

□動詞の後に/pas/を伴わせることで、禁止の文を作ります。

/oublier/	Oublie!	忘れろ!
/oublier/pas/	N'oublie pas!	忘れるな!

□疑問詞/qui/ (だれ) は、文型によって置かれる場所が異なります。S+A 文型の主語や S+V+COD 文型の COD である場合は文末に、S+V 文型の主語や S+V+COD 文型の主語の場合は文頭に置かれます。平たく言えば、「主語はいつも動詞の直前にある」と覚えることができます。

/cet/homme/qui/?	Qui est cet homme?	この人はだれですか?
/tu/regarder/qui/?	Qui est-ce que tu regardes?	君はだれを見ているの?
/qui/travailler/	Qui travaille?	だれが働くの?
/qui/enseigner/cet/enfant/	Qui enseigne cet enfant?	だれがこの子を教えるの?

□前置詞を伴う疑問文も作れます。この場合は文末に置かれます。

/tu/partir/avec/qui/? Avec qui pars-tu? 君はだれと外出するの？

exercices

- (1) 指文字を用いてかまわないので、有名人の名前を表現し、「それはだれ？」「この人は…」というふうに、/だれ/を用いた疑問文を作ったずね合ってみましょう。
- (2) 著名な人物のサインネームをいくつか覚え、「だれ？」という問いかけに対し、指文字とサインネームと両方で紹介する答え方を学びましょう。

culture アフリカろう者と世界情勢

テレビニュースや新聞を通じて、世界の情勢は常にアフリカの社会に届いています。ろう者も例外ではありません。あいにくアフリカ諸国では字幕付き放送などの整備が進んでいませんが、一部の国（ナイジェリアやベナン）では、時間帯や曜日を限定する形で、手話ニュースや手話通訳付きの一般対象ニュース番組などが放映されています。

国際情勢に強いろう者もいます。著名な外国の元首や政治家の名前などについては、指文字だけでなく手話のニックネーム（サインネーム）がいつしかできていて普及していることがあります。南アフリカ共和国のマンデラ氏やナイジェリアのオバサンジョ氏など、アフリカの著名な大統領のサインネームは、遠く離れた国のろう者たちにも知られています。おそらく、ろう者が旅行したり移住したりするときこのような手話が遠くの地方へと運ばれ、結果としてこうした知識が文化として広く共有されることになるのでしょう。

note -----

Leçon 8 : "Qu'est-ce que ton programme?"

第8課「君の予定は何ですか？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/ton/programme/quoi/? /maison/Charles/	/君の/予定/何/? /家/シャルル/
C : /aujourd'hui/ton/programme/quoi/? J : /je/sortir/un peu/matin/ C : /tu/faire/quoi/? J : /je/se promener/dans/ville/Yaoundé/ C : /bon/ /tu/sortir/avec/qui/? J : /je/sortir/moi/seul/ C : /midi/tu/manger/quoi/? J : /je/penser/je/manger/poisson/dans/ restaurant/ C : /tu/manger/avec/quoi/? J : /je/manger/avec/plantain/frit/frit/	/今日/君の/予定/何/? /私/出る/少し/朝/ /君/する/何/? /私/散歩する/…の中に/町/ヤウンデ/ /よい/ /君/出る/…と/だれ/? /私/出る/私/…だけ/ /昼/君/食べる/何/? /私/思う/私/食べる/魚/…の中に/レストラン/ /君/食べる/…と/何/? /私/食べる/…と/プランテンバナナ/フライ/フライ/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"ton programme quoi?" "maison Charles"	"トン・プログラム・クワ?" "メゾン・シャルル"
C : "aujourd'hui ton programme quoi?" J : "je sors un peu matin" C : "tu fais quoi?" J : "je me promène dans ville Yaoundé" C : "bon" "tu sors avec qui?" J : "je sors moi seul" C : "midi tu manges quoi?" J : "je pense je mange poisson dans restaurant" C : "tu manges avec quoi?" J : "je mange avec plantain frit frit"	"オジュールデュイ・トン・プログラム・クワ?" "ジュ・ソール・アンブ・マタン" "テュ・フェ・クワ?" "ジュ・ム・プロメヌ・ダン・ヴィル・ヤウンデ" "ボン" "テュ・ソール・アヴェク・キ?" "ジュ・ソール・モア・スル" "ミディ・テュ・マンジュ・クワ?" "ジュ・パンス・ジュ・マンジュ・ポアソン・ダン・レストラ ン" "テュ・マンジュ・アヴェク・クワ?" "ジュ・マンジュ・アヴェク・プランタン・フリ・フリ"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 8 : "Qu'est-ce que ton programme?"

(Chez Charles)

C : Qu'est-ce que ton programme d'aujourd'hui?

J : Je sors un peu le matin.

C : Qu'est-ce que tu fais?

J : Je me promène dans la ville de Yaoundé.

C : C'est bon! Avec qui sors-tu?

J : Je sors seul.

C : Qu'est-ce que tu manges à midi?

J : Je pense que je mange le poisson au restaurant.

C : Avec quoi est-ce que tu le manges?

J : Je le mange avec les plantains frits.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第8課「君の予定は何ですか？」

(シャルルの家で)

C : 今日の君の予定は?

J : 朝、ちょっと出かけるよ。

C : 何しに?

J : ヤウンデの町を散歩するんだ。

C : そりゃいいね! だれと出かけるの?

J : ひとりで出るよ。

C : お昼は何を食べる?

J : レストランで魚を食べようと思う。

C : 何とっしょに食べる?

J : フライドバナナと食べるよ。

nouveaux signes

/que/, /quoi/	何
/programme/	予定
/aujourd'hui/	今日
/sortir/	外出する
/un peu/	少し、ちょっと
/matin/	朝
/faire/	する、行う
/se promener/	散歩する
/ville/	町、都市
/Yaoundé/	ヤウンデ (カメルーンの首都)
/bon/	よい
/seul/	ただひとつの、一人きりの
/midi/	正午
/penser/	思う、考える
/poisson/	魚
/plantain/	プランテンバナナ
/frit/	油であげた

grammaire : "que" (何)

この課では、LSAF の疑問詞/que/や/quoi/ (何) およびそれに関連する表現について学びます。

□/quoi/ (何) については、名前をたずねる方法として一度学びました。文型によらず、原則として/quoi/は文末に置かれます。口型は常に"クワ"です。

/ton/programme/quoi/?	Qu'est-ce que ton programme?	君の予定は何?
/tu/faire/quoi/?	Qu'est-ce que tu fais?	君は何をするの?
/tu/manger/avec/quoi/?	Avec quoi est-ce que tu manges?	君は何と食べるの?
/bon/quoi/?	Qu'est-ce qui est bon?	何がいいの?

exercices

- (1) 自分がこの一週間のうちにしたこと、とりわけ食べた物、買った物など、物に関わる行動を思い出して書き出してみましよう。それにもとづいて「あなたは何をするの?」「何を食べるの?」とお互いに聞いてみましよう。
- (2) これからしたいこと、しなければならないことについて、「君の予定は?」「…をする/…をしない」などと会話してみましよう。

culture 君の予定は？

「トン・プログラム・クワ？（君の予定は？）」。私がアフリカでの調査中にもっとも多くたずねられることばのひとつです。

文化人類学者と称して好奇心ひとつでうろつく珍妙な外国人、何をし始めるか分からないやつ。そういう好奇と危惧のまなざしがあるかもしれないことは、私自身も認めますが、それだけではないかなとも感じています。別れるとき、あるいはそうでなくても、自他の行動をきちんとことばで確かめ、連絡が取れなくなっても不安を招かないように心がけておく。これは、ろう者の社会生活の中で生まれた一種の慣習と言えるでしょう。「ランコントレ・カン？」（次はいつ会う？）。これもよく聞かれる質問です。

もっとも、後で紹介するように、アフリカの都市部のろう者の間には携帯が普及し始めています。いつでも連絡が取れるという感覚になれば、こうした慣習も次第に変わっていくのかもしれませんが。

note -----

Leçon 9 : "Où pars-tu?"
第9課「君はどこに行くの？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun C : Charles

/tu/partir/où/? /maison/Charles/	/君/出発する/どこ/? /家/シャルル/
J : /tu/partir/où/? C : /je/aller/école/sourd/ /ce/après-midi/ beaucoup/sourd/arriver/là-bas/pour/ rencontrer/ami/	/君/出発する/どこ/? /私/行く/学校/ろう者/ /これ/午後/たくさん/ろ う者/着く/あそこ/…のために/会う/友だち/
J : /ils/rencontrer/chaque/jour/? C : /non/chaque/mercredi/et/samedi/ /allons/école/sourd/ensemble/	/彼ら/会う/毎/日/? /いいえ/毎/水曜日/…と/土曜日/ /行こう/学 校/ろう者/いっしょに/
J : /merci/je/aller/avec/toi/ /partir/ comment/? C : /prendre/voiture/taxi/ J : /prendre/taxi/où/? C : /là-bas/face/grand/affaires/marché/	/ありがとう/私/行く/…と/君/ /出発する/どの ように/? /取る/車/タクシー/ /取る/タクシー/どこ/? /あそこ/向かい/大きい/商売/市場/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"tu pars où?" "maison Charles"	"テュ・パール・ウ?" "メゾン・シャルル"
J : "tu pars où?" C : "je vais école des sourds" "cet après- midi beaucoup sourd arrivent là-bas pour rencontrer ami"	"テュ・パール・ウ?" "ジュ・ヴェ・エコール・デ・スール" "セッタプレミデ ィ・ボク・スール・アリヴ・ラバ・プル・ランコントレ・ アミ"
J : "ils rencontrent chaque jour?" C : "non chaque mercredi et samedi" "allons école des sourds ensemble"	"イル・ランコントル・シャク・ジュール?" "ノン・シャク・メルクルディ・エ・サムディ" "アロ ン・エコール・デ・スール・アンサンブル"
J : "merci je vais avec toi" "part comment?" C : "prend taxi" J : "prend taxi où?" C : "là-bas face grand affaires marché"	"メルシー・ジュ・ヴェ・アヴェクトア" "パール・コ マン?" "プラン・タクスイ" "プラン・タクスイ・ウ?" "ラバ・ファス・グラン・アフエール・マルシェ"

dialogue : français

J : Jun C : Charles

Leçon 9 : "Où pars-tu?"

(Chez Charles)

J : Où pars-tu?

C : Je vais à l'école des sourds. Cet après-midi, beaucoup de sourds arrivent là-bas pour rencontrer les amis.

J : Ils se rencontrent chaque jour?

C : Non, chaque mercredi et samedi. Allons à l'école des sourds ensemble!

J : Merci. J'y vais avec toi. Comment est-ce qu'on part?

C : On part en taxi.

J : Où est-ce qu'on prend le taxi?

C : Là-bas, en face du supermarché.

dialogue : japonais

J : 淳 C : シャルル

第9課「君はどこに行くの？」

(シャルルの家で)

J : どこに行くの？

C : ろう学校に行くんだ。今日の午後、ろう者たちが友だちと会うためにたくさん集まってくるんだ。

J : 毎日会ってるの？

C : いや、毎週水曜と土曜にね。ろう学校にいっしょに行こう！

J : ありがとう。いっしょに行くよ。どうやって行く？

C : タクシーで行こう。

J : タクシーはどこで拾おうか？

C : あそこのスーパーの前でね。

nouveaux signes

/où/	どこ
/partir/	出発する
/aller/	行く
/après-midi/	午後
/arriver/	到着する
/rencontrer/	会う
/ami/	友人、友だち
/chaque/	毎…
/mercredi/	水曜日
/samedi/	土曜日
/ensemble/	いっしょに
/comment/	どのように
/face/	向かい
/supermarché/	スーパー

grammaire : "où, comment" (どこ、どのように)

この課では、LSAF の疑問詞/où/ (どこ)、/comment/ (どのように) およびそれに関連する表現について学びます。

□/où/ /comment/ともに、文末に置かれます。主語や動詞の語順は、基本的に変わりません。

/tu/partir/où/?	Où pars-tu?	君、どこに出かけるの？
/tu/aller/comment/?	Comment est-ce que tu vas?	君はどうやって行くの？

□場所の表現をするときは、S+V などの時系列に沿った語順だけでなく、手話の表出をする場所や指差し、動詞の方向などの空間の使い方が重要な意味をもちます。

□人名と同様、著名な地名（国名や都市名）には、固有の手話があります。一方、あまりろう者の会話に登場しない地名については、手話の語としてはないケースもあります。後者のケースについては、指文字で地名のスペルを示します。

exercices

- (1) グループで、お互いの住所や出身地、旅行したことのある国や行きたい所など、疑問詞/どこ/と場所を含む質問と返答の練習をしましょう。
- (2) それぞれの場所に行く時に、どのような手段で行くのか、/どのように/を使った文を作り、お互いに聞いてみましょう。
- (3) アフリカの国名など、地名の表現をいくつか覚え、文の中で使ってみましょう。

culture ろう学校という文化の中心

ろう学校が、聞こえない子どもたちの集まる場所であり、手話という少数言語が伝承され共有される重要な機能をもつということは、おそらく世界どこでも共通していることでしょう。

アフリカ諸国の大都市にあるろう学校は、キリスト教系の私立学校という由来をもつものも多く、ろうの子どもたちのための学校のほか、おとなのろう者の社交の場、日曜のキリスト教会、全国あるいは地方のろう者協会の会議室などとしても用いられる、多目的スペースとなっている様子を見ることができます。いわば、ろう者の文化の集積地点、中心地をなしていると言っても過言ではないでしょう。

スキットで紹介した通り、カメルーンの首都ヤウンデに暮らすろう者たちは、毎週2回ろう学校に集まり、スポーツをしたり情報交換をしたりしながら親交を温めています。ろう学校の生徒たちも、年長となればこうしたおとなのろう者たちの話の輪に加わり、学校では教わらない手話やさまざまな情報などにふれています。

なお、ろう学校がある町の名前は、手話の世界における重要な地名であることが多く、たいてい手話の固有名詞があります。一方、ろう者になじみの薄い地名には手話の固有名詞がないこともあり、その場合は指文字を用います。

note -----

Leçon 10 : "Quand es-tu arrivé au Cameroun?"

第 10 課「君はいつカメルーンに着いたの？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

H : un homme sourd J : Jun

/tu/arriver/Cameroun/quand/? /avec/un/homme/sourd/école/sourd/	/君/着く/カメルーン/いつ/? /…と/1/人/ろう者/学校/ろう者/
H : /tu/chinois/? J : /non/je/japonais/ /mon/nom/J/U/N/ H : /bienvenue/Cameroun/ /tu/arriver/Cameroun/quand/?	/君/中国人/? /いいえ/私/日本人/ /私の/名前/J/U/N/ /ようこそ/カメルーン/ /君/着く/カメルーン/いつ/?
J : /je/arriver/31/juillet/ H : /vendredi/avant/? J : /non/jeudi/avant/ H : /tu/séjourner/Cameroun/jusqu'à/ quand/?	/私/着く/31/7月/ /金曜日/前の/? /いいえ/木曜日/前の/ /君/滞在する/カメルーン/…まで/いつ/?
J : /je/séjourner/Cameroun/jusqu'à/11/ août/ H : /tu/partir/lundi/prochain/? J : /exact/ H : /tu/seul/une/semaine/demi/ /pas/long/ temps/	/私/滞在する/カメルーン/…まで/11/8月/ /君/出発する/月曜日/次の/? /正確/ /君/…だけ/1/週/半分/ /…ない/長い/時間/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に（フランス語ではありません）

"tu arrives Cameroun quand?" "avec un homme sourd école des sourds"	"テュ・アリヴ・カメルーン・カン?" "アヴェク・アノム・スール・エコール・デ・スール"
H : "tu chinois?" J : "non je japonais" "mon nom J U N" H : "bienvenue Cameroun" "tu arrives Cameroun quand?"	"テュ・シノワ?" "ノン・ジュ・ジャポネ" "モン・ノン・ジ・ユ・エヌ" "ビアンヴニュ・カメルーン" "テュ・アリヴ・カメル ーン・カン?"
J : "j'arrive 31 juillet" H : "vendredi dernier?" J : "non jeudi dernier" H : "tu séjournes Cameroun jusqu'à quand?" J : "je séjourne Cameroun jusqu'à 11 août"	"ジャリヴ・トランテ・アン・ジュイエ" "ヴァンドルディ・デルニエ?" "ノン・ジュディ・デルニエ" "テュ・セジュールヌ・カメルーン・ジュスカ・カン?" "ジュ・セジュールヌ・カメルーン・ジュスカ・オーンズ・ ウート"
H : "tu pars lundi prochain?" J : "exactement" H : "tu seul une semaine demi" "pas long temps"	"テュ・パール・ランディ・プロシャン?" "エグザクトマン" "テュ・スル・ユン・スメン・ドウミ" "パ・ロン・タン"

dialogue : français

H : un homme sourd J : Jun

Leçon 10 : "Quand es-tu arrivé au Cameroun?"

(Avec un homme sourd à l'école des sourds)

H : Tu es chinois?

J : Non, je suis japonais. Je m'appelle J-U-N.

H : Bienvenue au Cameroun! Quand es-tu arrivé au Cameroun?

J : Je suis arrivé le 31 juillet.

H : Le vendredi dernier?

J : Non, le jeudi dernier.

H : Jusqu'à quand est-ce que tu séjournes au Cameroun?

J : Je séjournerai au Cameroun jusqu'au 11 août.

H : Tu partiras le lundi prochain?

J : Exactement!

H : Tu as seulement une semaine et demie! Ce n'est pas long!

dialogue : japonais

H : ろうの男性 J : 淳

第 10 課 「君はいつカメルーンに着いたの？」

(ろう学校でろうの男性と)

H : 君、中国人？

J : いやいや、ぼくは日本人。名前は淳です。

H : カメルーンにようこそ！ カメルーンにはいつ来たの？

J : 7 月 31 日に着いたよ。

H : 先週の金曜日？

J : いえ、先週の木曜日。

H : カメルーンにはいつまでいるの？

J : カメルーンに 8 月 11 日までいるつもり。

H : 来週の月曜日に出発するわけ？

J : そう、そのとおり。

H : たったの一週間半か！ 短いね！

nouveaux signes

/quand/	いつ
/chinois/	中国人、中国の
nombre (/1/, /2/, /3/, ...)	数 (/1/, /2/, /3/, ...)
/juillet/	7月
/vendredi/	金曜日
/dernier/	先週の、前の
/jeudi/	木曜日
/jusqu'à/	…まで
/séjourner/	滞在する
/août/	8月
/prochain/	次の、翌…
/exactement/	正確に
/seulement/	…だけ
/semaine/	週
/demi/	半分
/long/	長い

grammaire : "quand" (いつ)

この課では、LSAFの疑問詞/quand/ (いつ) およびそれに関連する表現について学びます。

□疑問詞/quand/は、原則として文末に置きます。

/tu/arriver/quand/? Quand es-tu arrivé? いつ着いたの?

□前置詞/depuis/ (…から) /jusqu'à/ (…まで) を用いた表現でも、/quand/は文末に置かれます。

/tu/séjourner/depuis/quand/? Depuis quand est-ce que tu séjournes? 君はいつから滞在しているの?

/tu/séjourner/jusqu'à/quand/? Jusqu'à quand est-ce que tu séjournes? 君はいつまで滞在しているの?

□/quand/を含む疑問文への回答として、時間に関わる多様な表現を学びます。一般論として、身体の前方が未来、後方が過去です。

exercices

(1) グループで、最近各自が行った所やしたことをテーマとし、疑問詞/いつ/を含む質問と返答の練習をしましょう。

(2) 年月日や曜日の表現を学び、それぞれの誕生日や自分にとって重要と思う記念日などの表現を試みましょう。

(3) 数の表現を学び、フランス語口型とともに表出できるように練習しましょう。

culture 外国ろう者との交流

ろう者のたまり場の機能を果たすろう学校に集まり、手話で他愛もない話をする中で、情報交換が行われ、緊密な人間関係が作られていきます。

旅行でアフリカの国ぐにを訪れる外国人のろう者も、よくこうした社交の場にふらりとやってきます。ふだん話しているのとは違う外国の手話を話すろう者が現れると、その珍しい来客に会おうと、地元のろう者たちがたくさんやってきたりします。いつどこの国のろう者がこの町を訪れ、何日にろう学校のたまり場にやって来るか、そしていつごろ国に帰るか、などの話も素早く共有され、人脈と情報の結節点となっている様子を見ることができます。

私は研究者として、足しげくこのようなろう学校の集まりに通って来ました。あるとき、事情があつてしばらく行けないことが続いたところ、「あいつはなぜ顔を出さないのか」と不審がられたこともありました。調査や情報収集といった確たる目的がなくても、手話の世界の一種の「ご近所付き合い」で、こうした集まりに顔を出す日々が続くのです。

note -----

Leçon 11 : "Pourquoi est-ce que tu rentres?"

第 11 課「君はなぜ帰るの？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun H : un homme sourd

/tu/rentrer/pourquoi/? /avec/homme/sourd/école/sourd/	/君/帰る/なぜ/? /…と/人/ろう者/学校/ろう者/
J : /quelle/heure/? H : /14/H/45/	/何の/時/? /14/H/45/
J : /ah/je/rentrer/maintenant/ H : /tu/rentrer/pourquoi/?	/ああ/私/帰る/今/ /君/帰る/なぜ/?
J : /parce que/je/avoir/rendez-vous/avec/ mon/ami/maison/Charles/ H : /tu/avoir/rendez-vous/quelle/heure/?	/なぜなら/私/持つ/約束/…と/私の/友だち/家/ シャルル/ /君/持つ/約束/何の/時/?
J : /15/H/30/ /je/sortir/maintenant/ parce que/je/rentrer/à pied/ H : /tu/prendre/pas/voiture/taxi/ pourquoi/?	/15/H/30/ /私/出る/今/なぜなら/私/帰る/歩 いて/ /君/取る/…ない/車/タクシー/なぜ/?
J : /parce que/je/aimer/marcher/dans/ville/ H : /je/comprendre/ /demain/	/なぜなら/私/…が好きだ/歩く/…の中に/町/ /私/分かる/ /明日/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"tu rentres pourquoi?" "avec homme sourd école des sourds"	"テュ・ラントル・プルクワ?" "アヴェク・オム・スール・エコール・デ・スール"
J : "quelle heure?" H : "14H45"	"ケルール?" "カトルズール・カラン・サンク"
J : "ah je rentre maintenant" H : "tu rentres pourquoi?"	"ア・ジュ・ラントル・マンテナン" "テュ・ラントル・プルクワ?"
J : "parce que j'ai rendez-vous avec mon ami maison Charles" H : "tu as rendez-vous quelle heure?"	"パスク・ジェ・ランデヴー・アヴェク・モン・アミ・メゾ ン・シャルル" "テュ・ア・ランデヴー・ケルール?"
J : "15H30" "je sors maintenant parce que je rentre à pied" H : "tu prends pas taxi pourquoi?"	"カーンズール・トラント" "ジュ・ソール・マンテナ ン・パスク・ジュ・ラントル・ア・ピエ" "テュ・プラン・パ・タクスイ・プルクワ?"
J : "parce que j'aime marcher dans ville" H : "je comprends" "demain"	"パスク・ジェム・マルシェ・ダン・ヴィル" "ジュ・コンプラン" "ドゥマン"

dialogue : français

J : Jun H : un homme sourd

Leçon 11 : "Pourquoi est-ce que tu rentres?"

(Avec un homme sourd à l'école des sourds)

J : Quelle heure est-il?

H : 14H45.

J : Ah, je rentre maintenant.

H : Pourquoi est-ce que tu rentres?

J : Parce que j'ai rendez-vous avec un de mes amis chez Charles.

H : A quelle heure as-tu rendez-vous ?

J : A 15H30. Je sors ici maintenant parce que je rentre à pied.

H : Pourquoi est-ce que tu ne prends pas le taxi?

J : Parce que j'aime marcher dans la ville.

H : Je comprends. A demain!

dialogue : japonais

J : 淳 H : ろうの男性

第11課「君はなぜ帰るの？」

(ろう学校でろうの男性と)

J : いま何時？

H : 14時45分。

J : あ、ぼくはもう帰るよ。

H : どうして帰るの？

J : シャルルの家で友だちと約束があるから。

H : 何時に約束があるの？

J : 15時半に。歩いて帰るから、今ここを出るよ。

H : なぜタクシーを拾わないの？

J : ぼくは町を歩くのが好きだから。

H : 分かった。また明日ね！

nouveaux signes

/pourquoi/	なぜ
/rentrer/	帰る
/quelle heure/	何時
/H (heure)/	…時
/rendez-vous/	約束
/à pied/	徒歩で、歩いて
/marcher/	歩く
/demain/	明日
/A demain!/ 	また明日ね!

grammaire : "pourquoi, quelle heure" (なぜ、何時)

この課では、LSAF の疑問詞/pourquoi/ (なぜ)、/quelle heure/ (何時) およびそれらに関連する表現について学びます。

□疑問詞/pourquoi/は、原則として文末に置きます。理由は/parce que/ (なぜなら) で始まる節で答えます。

/tu/rentrer/pourquoi/?	Pourquoi est-ce que tu rentres?	君はなぜ帰るの?
/parce que/je/avoir/rendez-vous/	Parce que j'ai rendez-vous.	約束があるから。

□疑問詞/quelle/heure/は、原則として文末に置きます。

/tu/rentrer/quelle/heure/?	A quelle heure est-ce que tu rentres?	君は何時に帰るの?
----------------------------	---------------------------------------	-----------

□時間に関わる多様な表現をあわせて学びます。

exercices

- (1) グループで、最近各自がしたことをテーマとし、疑問詞/なぜ/を含む質問をするとともに、/なぜなら/を用いた返答の練習をしましょう。
- (2) 各自の日課について、/何時/を含む質問と返答のやりとりをしてみましょう。
- (3) 0 時から 24 時までの 24 時間の時間をすべて組み合わせで表現できるように練習しましょう。とくに、数のフランス語口型をあわせて学ぶことが重要です。

culture 乗り物

公共交通機関が必ずしも整備されていないアフリカの諸都市で、タクシーは重要な移動手段です。日本のような個人による貸し切りタクシーではなく、同じ方向に向かう客どうしでの乗り合いになります。自分の行きたい場所と同じ方向に向かうタクシーにめぐりあえばラッキーですが、そうでない場合は乗車を断られてもしかたありません。

運転手 1 人の普通の乗用車で、後部座席に 3 人、助手席に 2 人、客の定員は合計 5 人です。朝夕のラッシュ時であれば、助手席に客 2 人で乗り込むことになり、大柄なアフリカの人たちの体につぶされそうになります。

タクシーの料金には相場がありますが、時には交渉も必要になります。ろう者はそのようなときにそなえ、自分の行き先と、いくらで行ってほしいという希望額などを書いたメモをもっており、それを提示して運転手と交渉します。

国や都市にもよりますが、車のタクシーよりバイクタクシーの方がポピュラーな乗り物である所もあります。自動車のタクシーよりも安く、渋滞する自動車の列もすり抜けてスイスイと走るため、庶民の足として親しまれています。

note -----

Leçon 12 : "Ça fait combien?"

第12課「それ、いくらですか？」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun G : un garçon sourd

/ça/prix/combien/? /avec/un/garçon/sourd/sur/rue/	/それ/値段/いくら/? /…と/1/少年/ろう者/…の上で/道/
J : /tu/vendre/quoi/? G : /je/vendre/arachide/ /ça/bon/	/君/売る/何/? /私/売る/ピーナツ/ /それ/よい/
J : /ça/prix/combien/? G : /25/	/それ/値段/いくら/? /25/
J : /donner/moi/deux/arachide/ G : /merci/ /ça/50/franc/	/与える/私/2/ピーナツ/ /ありがとう/ /それ/50/セーファ/
J : /tu/quel/âge/? G : /je/14/an/	/君/何の/年齢/? /私/14/歳/
J : /tu/aller/école/sourd/? G : /oui/je/aller/école/sourd/ /je/vendre/ arachide/pendant/ma/vacance/	/君/行く/学校/ろう者/? /はい/私/行く/学校/ろう者/ /私/売る/ピーナツ/…の間/私の/休暇/
J : /bon/chance/	/よい/幸運/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に（フランス語ではありません）

"ça prix combien?" "avec un garçon sourd sur rue"	"サ・プリ・コンビアン?" "アヴェク・アン・ギャルソン・スール・スール・リュ"
J : "tu vends quoi?" G : "je vends arachide" "c'est bon"	"テュ・ヴァン・クワ?" "ジュ・ヴァン・アラシード" "セ・ボン"
J : "ça prix combien?" G : "25"	"サ・プリ・コンビアン?" "ヴァン・サンク"
J : "donne-moi deux arachides" G : "merci" "ça 50 francs"	"ドヌ・モア・ドウ・ザラシード" "メルシー" "サ・サンカント・フラン"
J : "tu quel âge?" G : "je 14 ans"	"テュ・ケラージュ?" "ジュ・カトルザン"
J : "tu vas école des sourds?" G : "oui je vais école des sourds" "je vends arachides pendant ma vacance"	"テュ・ヴァ・エコール・デ・スール?" "ウイ・ジュ・ヴェ・エコール・デ・スール" "ジュ・ヴァン・アラシード・パンダン・マ・ヴァカンス"
J : "bonne chance"	"ボン・シャンス"

dialogue : français

J : Jun G : un garçon sourd

Leçon 12 : "Ça fait combien?"

(Avec un garçon sourd dans la rue)

J : Qu'est-ce que tu vends?

G : Je vends les arachides. Ce sont très bonnes!

J : Ça fait combien?

G : 25 francs.

J : Donne-moi deux.

G : Merci. Ça fait 50.

J : Quel âge as-tu?

G : J'ai 14 ans.

J : Tu vas à l'école des sourds?

G : Oui, je vais à l'école des sourds. Je vends les arachides pendant mes vacances.

J : Bonne chance!

dialogue : japonais

J : 淳 G : ろうの少年

第12課「それ、いくらですか？」

(道端でろうの少年と)

J : 何を売ってるんだい？

G : ピーナツ。これ、とってもおいしいよ！

J : いくら？

G : 25 セーファ。

J : ふたつちょうだい。

G : ありがとう。50 セーファです。

J : 君、いくつだい？

G : 14 歳。

J : ろう学校には行ってるの？

G : うん。ろう学校に行ってるよ。休みの間にピーナツを売っているんだ。

J : がんばってね！

nouveaux signes

/combien/	いくら、いくつ
/garçon/	少年
/rue/	道
/vendre/	売る
/arachide/	落花生、ピーナツ
/donner/	与える
/Donne-moi/	ちょうだい
/quel âge/	何歳
/an/	…歳、年
/pendant/	…の間
/vacance/	休暇
/chance/	幸運
/Bonne chance!/	幸運を祈ります！

grammaire : "combien, quel âge" (いくら/いくつ、何歳)

この課では、LSAFの疑問詞/combien/ (いくら/いくつ)、/quel âge/ (何歳) およびそれらに関連する表現について学びます。

□疑問詞/combien/ (いくら) は、原則として文末に置きます。/combien/だけでも値段を聞くことができますが、次項の「いくつ」と区別したい時は/prix/を付けることができます。

/ça/prix/combien/? Ça fait combien? それ、いくらですか?
/ça/combien/? Ça fait combien? それ、いくらですか?

□同じ疑問詞/combien/は、「いくつ」と数量を聞くときにも使えます。やはり文末に置きます。

/tu/avoir/combien/fruit/ Combien de fruits as-tu? 果物をいくつ持っていますか?

□疑問詞/quel âge/は、原則として文末に置きます。

/tu/quel âge/? Quel âge as-tu? 君、いくつだい?

□値段、数量、年齢など、数に関わる多様な表現をあわせて学びます。

exercices

- (1) グループで、/combien/を用い、物の値段や数量をたずね合う質問や返答の練習をしましょう。
- (2) 自分や家族、友人の年齢をたずねる質問を作り、/何歳/を含む質問と返答のやりとりをしてみましょう (年齢は仮想でけっこうです)。
- (3) 長さや重さなど、数と単位を組み合わせた多様な表現を学び、使えるように練習しましょう。

culture ろう者の仕事

アフリカにおけるろう者の仕事は、さまざまです。学校での職業訓練ゆえか、職人が多く、洋裁、木工、家具職人、デザインなどの仕事をしている人などが多いようです。中にはろう学校に勤務して教鞭をとったり、欧米の大学などの高等教育機関に留学したりする人もいますが、全体から見れば少数派です。職に就けないでいる無職のろう者もあり、言語・文化面のみならず、経済面での生活実態調査が求められています。

ある町で、ピーナツを山盛りにしたお盆を頭に乘せ、売り歩いているろうの少年に会った時はびっくりしました。「児童労働」だと言えばそうなりますが、手話を話せない客たちを相手に、みぶりひとつで小遣いを稼いでいる姿は、それなりにかっこいいものにも見えました。必要に迫られてしているのか、賢く生き抜くすべを知っているのか、背景は分かりませんが、ろう児たちは幼い頃から、アフリカ社会の現実とその中をしたたかに生き抜く知恵や戦術になじみながら育っていくかのようです。

note -----

Leçon 13 : "J'ai visité le Japon."

第13課「私は日本に行きました」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

S : la sœur de Charles J : Jun

(1) /je/finir/visiter/Japon/ (2) /je/visiter/finir/Japon/ /maison/sœur/Charles/	(1) /私/終わる/訪れる/日本/ (2) /私/訪れる/終わる/日本/ /家/姉妹/シャルル/
S : /entrez/s'asseoir/là/ J : /merci/ /mon/nom/J/U/N/ /je/ étudiant/japonais/ S : /avant/3/an/je/finir/visiter/Japon/ J : /vrai/? /tu/finir/visiter/Japon/ pourquoi?/ S : /pour/affaires/ /je/préparer/poisson/ sauce/tomate/avec/plantain/ /bon appétit/ J : /merci/ S : /tu/manger/sans/piment?/ J : /oui/parce que/ça/piquant/ S : /tu/manger/encore/plantain?/ J : /non/merci/je/déjà/manger/beaucoup/ S : /il faut/manger/beaucoup/parce que/tu/ maigre/	/入りなさい/座る/そこ/ /ありがとう/ /私の/名前/J/U/N/ /私/学生/ 日本人/ /…前に/3/年/私/終わる/訪れる/日本/ /本当の/? /君/終わる/訪れる/日本/なぜ?/ /…のために/ビジネス/ /私/調理する/魚/ソー ス/トマト/…と/プランテンバナナ/ /召し上がれ/ /ありがとう/ /君/食べる/…なしに/トウガラシ/? /はい/なぜなら/それ/辛い/ /君/食べる/さらに/プランテンバナナ/? /いいえ/ありがとう/私/すでに/食べる/たくさん/ /…しなければならぬ/食べる/たくさん/なぜなら /君/やせている/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

(1) "je fini visiter Japon" (2) "je visiter fini Japon" "maison sœur Charles"	(1) "ジュ・フィニ・ヴィズイテ・ジャポン" (2) "ジュ・ヴィズイテ・フィニ・ジャポン" "メゾン・スール・シャルル"
S : "entrez asseyez-vous" J : "merci" "mon nom J U N" "je étudiant japonais" S : "avant 3 an je fini visiter Japon" J : "vrai?" "tu fini visiter Japon pourquoi?" S : "pour affaires" "je prépare poisson sauce tomate avec plantain" "bon appétit" J : "merci" S : "tu manges sans piment?" J : "oui parce que c'est piquant" S : "tu manges encore plantain?"	"アントレ・アセイエ・ヴ" "メルシー" "モン・ノン・ジ・ユ・エヌ" "ジュ・エテ ユディアン・ジャポネ" "アヴァン・トロワザン・ジュ・フィニ・ヴィズイテ・ジャ ポン" "ヴレ?" "テュ・フィニ・ヴィズイテ・ジャポン・プル クワ?" "プル・アフエール" "ジュ・プレパル・ポアソン・ソ ース・トマツ・アヴェク・プランタン" "ボナペテ イ" "メルシー" "テュ・マンジュ・サン・ピマン?" "ウイ・パスク・セ・ピカン" "テュ・マンジュ・アンコール・プランタン?"

J : "non merci je déjà mangé beaucoup"	"ノン・メルシー・ジュ・デジャ・マンジェ・ボク"
S : "il faut manger beaucoup parce que tu maigre"	"イルフォ・マンジェ・ボク・パスク・テュ・メーグル"

dialogue : français

S : la sœur de Charles J : Jun

Leçon 13 : "J'ai visité le Japon."

(Chez la sœur de Charles)

S : Entrez! Asseyez-vous.

J : Merci. Je m'appelle J-U-N. Je suis étudiant japonais.

S : Il y a 3 ans, j'ai visité le Japon.

J : C'est vrai? Pourquoi as-tu visité le Japon?

S : Pour les affaires. J'ai préparé le poisson à la sauce de tomate avec les plantains. Bon appétit!

J : Merci.

S : Tu manges sans piment?

J : Oui, parce que c'est trop piquant.

S : Tu manges encore les plantains?

J : Non, merci. J'ai beaucoup mangé déjà.

S : Il faut beaucoup manger parce que tu es maigre!

dialogue : japonais

S : シャルルの姉 J : 淳

第13課「私は日本に行きました」

(シャルルの姉の家で)

S : お入り! おかけなさい!

J : ありがとうございます。私は淳といいます。日本人の学生です。

S : 私、3年前に日本に行ったのよ。

J : ほんと? どうして日本に行ったの?

S : ビジネスでね。トマトソースの魚とプランテンバナナを作ったの。召し上がって!

J : ありがとうございます。

S : トウガラシは付けないの?

J : ええ、それ辛すぎるから。

S : プランテンバナナ、おかわりは?

J : いいえ、けっこうです。もうずいぶん食べたから。

S : たくさん食べなきゃだめよ、あなたやせてるんだから。

nouveaux signes

/visiter/	訪れる
/sœur/	姉妹
/Entrez!/ /Asseyez-vous./	お入りなさい! おかけなさい。
/il y a (3 ans)/	(3年) 前に
/affaires/	ビジネス
/préparer/	調理する、準備する
/sauce/	ソース
/Bon appétit!/ /sans/	召し上がれ! …なしに
/piment/	トウガラシ
/piquant/	辛い
/encore/	さらに、また
/Non, merci./	いいえ、けっこうです。
/déjà/	すでに
/il faut .../ /maigre/	…しなければならない やせている

grammaire : "temps" (時制)

この課では、LSAF の時制 (過去、未来) について学びます。

□動詞に/finir/を伴わせることで、完了形を作ることができます。動詞の前に置く場合と後に置く場合とがありますが、意味は同じです。

/je/finir/visiter/Japon/	J'ai visité le Japon.	私は日本を訪れた (完了)。
/je/visiter/finir/Japon/	J'ai visité le Japon.	私は日本を訪れた (完了)。

□過去形を作るには、完了形をそのまま用いる方法と、過去を示す副詞 (句) を伴わせる方法とがあります。

/je/visiter/finir/Japon/	J'ai visité le Japon.	私は日本を訪れた。(過去)
/je/visiter/Japon/année/avant/	J'ai visité le Japon l'année dernière.	私は去年日本を訪れた。(過去)

□未来形を作るには、未来を示す副詞 (句) を伴わせます。

/je/visiter/Japon/avenir/	Je visiterai le Japon.	私は日本を訪れる。(未来)
/je/visiter/Japon/demain/	Je visiterai le Japon demain.	私は明日日本を訪れる。(未来)
/je/visiter/Japon/année/avenir/	Je visiterai le Japon l'année prochaine.	私は来年日本を訪れる。(未来)

□過去や未来のある時点を示す、いくつかの副詞の表現を学びます。

exercices

- (1) グループで基本例文をひとつ定め、現在形、完了形、完了形を用いた過去形、副詞句を用いた過去形、副詞句を用いた未来形のそれぞれを作ってみましょう。
- (2) 過去や未来の時点を示すさまざまな副詞句の表現を使いこなせるように、練習してください。

culture おもてなし

アフリカで友人や知人の家を訪れると、丁寧なおもてなしを受けることがあります。

到着したら、まず客人に水を一杯差し出し、ぐいっと飲んでもらうという習慣の地域もあります。暑い熱帯ならではの文化ですが、私たち外来者は、生水を飲むと肝炎などに感染するおそれもありますので、そのような理由を正直に述べて丁寧に断ります。

このスキットのように食事を出していただくこともあります。アフリカでは太っていることに対するネガティブなイメージがなく、むしろ豊かさのシンボルのように見られることがあります。ひよろひよろとした姿で現れる私は、いつも「もっと食べ」「もっと太れ」と言われ続けています。

飲み物の歓待を受けることもあります。冷えた瓶のジュースやビールを近所の売店で買ってきて、栓を抜いて出します。一本丸ごとラップ飲みでごちそうになるので、何軒かあいさつ回りをしてそのつど飲み物をいただいていると、お腹がタプタプになってしまうこともあります。

ろう者の家で食事を出され、"Bon appétit!"と言われたら、必ず"Merci!"と返事をしましょう。手話で食前のお祈りをすることもあり、その場合はいっしょにお祈りの時をすごしながら、食事の始まるのを待ちます。

note -----

Leçon 14 : "Je veux apprendre la langue des signes."

第 14 課「私は手話を学びたい」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun E : un homme entendant

/je/vouloir/apprendre/langue des signes/ /avec/un/homme/entendant/dans/classe/ langue des signes/	/私/…したい/学ぶ/手話/ /…と/1/人/聴者/…の中に/教室/手話/
J : /tu/entendant/?	/君/聴者/?
E : /oui/je/entendant/ /je/vouloir/ apprendre/langue des signes/avec/ enseignant/sourd/	/はい/私/聴者/ /私/…したい/学ぶ/手話/…と/教員/ろう者/
J : /bon/ /tu/pouvoir/apprendre/vite/ parce que/tout/enseignant/sourd/ professionnel/	/よい/ /君/…できる/学ぶ/早く/なぜなら/すべ ての/教員/ろう者/プロの/
E : /tu/apprendre/langue des signes/ comment/?	/君/学ぶ/手話/どのように/?
J : /même/toi/ /je/apprendre/avec/sourd/	/同じ/君/ /私/学ぶ/…と/ろう者/
E : /je/aimer/communiquer/avec/sourd/ /mais/maintenant/je/devoir/apprendre/ beaucoup/signe/parce que/il y a/ examen/aujourd'hui/	/私/…が好きだ/コミュニケーションする/…と/ろう 者/ /しかし/今/私/…しなければならない/学 ぶ/たくさん/手話/なぜなら/…がある/テスト/ 今日/
J : /ah/pardonner/moi/te/déranger/	/ああ/許す/私/君/じゃまする/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"je veux apprendre langue des signes" "avec un homme entendant dans classe langue des signes"	"ジュ・ヴ・アブランドル・ラング・デ・スィーニュ" "アヴェク・アノム・アンタンダン・ダン・クラス・ラン グ・デ・スィーニュ"
J : "tu entendant?"	"テュ・アンタンダン?"
E : "oui je entendant" "je veux apprendre langue des signes avec enseignant sourd"	"ウイ・ジュ・アンタンダン" "ジュ・ヴ・アブランド ル・ラング・デ・スィーニュ・アヴェク・アンセニヤ ン・スール"
J : "bon" "tu peux apprendre vite parce que tout enseignant sourd professionnel"	"ボン" "テュ・プ・アブランドル・ヴィット・パスク・ト ウー・アンセニヤン・スール・プロフェッショナル"
E : "tu apprends langue des signes comment?"	"テュ・アプラン・ラング・デ・スィーニュ・コマン?"
J : "même toi" "j'apprends avec sourd"	"メム・トア" "ジャプラン・アヴェク・スール"
E : "j'aime communiquer avec sourd" "mais maintenant je dois apprendre beaucoup signe parce que il y a examen aujourd'hui"	"ジェム・コムニケ・アヴェク・スール" "メ・マンテ ナン・ジュ・ドワ・アブランドル・ボク・スィーニュ・ パスク・イリヤ・エグザマン・オジュールデュイ"
J : "ah pardonner moi te déranger"	"ア・パルドヌ・モア・トゥ・デランジェ"

dialogue : français

J : Jun E : un homme entendant

Leçon 14 : "Je veux apprendre la langue des signes."

(Avec un homme entendant dans la classe de la langue des signes)

J : Tu es entendant?

E : Oui, je suis entendant. Je veux apprendre la langue des signes avec les enseignants sourds.

J : C'est bon! Tu peux apprendre vite parce que tous les enseignants sourds sont professionnels.

E : Comment est-ce que tu as appris la langue des signes?

J : Même que toi. J'ai appris avec les sourds.

E : J'aime communiquer avec les sourds. Mais maintenant je dois apprendre beaucoup de signes parce qu'il y a un examen aujourd'hui.

J : Ah, pardonne-moi de te déranger!

dialogue : japonais

J : 淳 E : 聴者の男性

第 14 課 「私は手話を学びたい」

(手話教室で聴者の男性と)

J : 君は聴者？

E : ええ、聴者です。ぼくはろう者の先生と手話を勉強したいんだ。

J : それはいいことだね。ろうの先生はみんなプロだから、すぐに覚えられるよ。

E : 君はどうやって手話を覚えたの？

J : 君と同じだよ。ろう者といっしょに覚えた。

E : ぼくはろう者と話すのが好きなんだ。でも、今は手話をたくさん覚えなさいといけないんだ。今日はテストがあるから。

J : あ、じゃましてごめん！

nouveaux signes

/vouloir/	ほしい、…したい
/apprendre/	学ぶ
/langue des signes/	手話
/classe/	教室
/pouvoir/	…できる
/vite/	早く
/professionnel/	プロの
/même/	同じ
/communiquer/	コミュニケーションする
/mais/	しかし
/devoir/	…しなければならない
/examen/	試験、テスト
/pardonne-moi/	ごめんなさい
/déranger/	じゃまする

grammaire : "verbe" (動詞)

この課では、LSAF のさまざまな動詞の用法について学びます。

□特定の動詞にほかの動詞を組み合わせることで、多様な表現ができます。

/je/vouloir/marcher/	Je veux marcher.	私は歩きたい。
/je/pouvoir/marcher/	Je peux marcher.	私は歩ける。
/je/devoir/marcher/	Je dois marcher.	私は歩かねばならない。
/je/aimer/marcher/	J'aime marcher.	私は歩くのが好きだ。
/je/savoir/marcher/	Je sais marcher.	私は歩き方を知っている。

□それぞれを否定する時は、ふたつの動詞の間に/pas/を入れます。

/je/vouloir/pas/marcher/	Je ne veux pas marcher.	私は歩きたくない。
/je/pouvoir/pas/marcher/	Je ne peux pas marcher.	私は歩けない。

以下同様

□否定文を作る時に、特定の語に置き換え可能なものがあります。

/vouloir/pas/ = /vouloir pas/	…したくない
/pouvoir/pas/ = /impossible/	…できない
/savoir/pas/ = /savoir pas/	…する方法を知らない

exercices

- (1) グループで、動詞をふくむ基本例文をひとつ定め、上記の動詞と組み合わせたさまざまな文を作ってみましょう。
- (2) それぞれの否定文も作ってみましょう。
- (3) ほかの語で言い換えが可能なものについては、否定文を言い換えてみましょう。

culture 手話を学ぶ聴者

これまでいくつもの国を訪れ、ろう者たちが手話で話している姿を見ることができました。あわせて、世界中どこに行っても、ろう者とともに手話を学ぼうとする聴者たちに出会うことができました。国や地域によらず、ろう者の手話に興味をもつ聴者というのが必ず一定の割合でいるのだと気付かされ、心強いものを感じます。

もともと、手話の学び方はさまざまです。日本であれば手話サークルが一般的でしょうし、アメリカなどでは大学の語学科目として手話にふれることが多いようです。

多くのアフリカ諸国では、ろう者がキリスト教会などの場所を借りて、信者である聴者たちに手話を指導する場面がしばしば見られます。また、NGOの事務所などを使うこともあります。さらには、ろう学校が手話のできないろう児の親たちを対象に、手話指導を行っているケースもあります。

公的な手話通訳者育成・派遣制度が整備されていないアフリカでは、一部のろう者が手話講師となって、個人または小規模な民間団体の中で手話の普及活動に尽力しているケースが多いのです。しかし、中には驚くほどのスキルを持った手話通訳者が現れるなど、ろう者講師の指導のたくみさをうかがわせます。

note -----

Leçon 15 : "Donne-moi ton adresse postale."

第 15 課「君の住所をください」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun C : Charles

/donner/moi/ton/adresse/poste/ /maison/Charles/	/与える/私/君の/住所/郵便/ /家/シャルル/
J : /tu/avoir/portable/? C : /oui/vrai/portable/bon/ /avec/ça/je/ pouvoir/communiquer/avec/ami/vite/vi te/communiquer/même/sourd/même/ entendant/ /je/te/donner/mon/ numéro/portable/7/7/7/8/4/2/5/3/	/君/持つ/携帯電話/? /はい/本当の/携帯電話/よい/ /…と/それ/私/… できる/コミュニケーションする/…と/友だち/早く/ 早く/コミュニケーションする/同じ/ろう者/同じ/聴 者/ /私/君/与える/私の/番号/携帯電話 /7/7/7/8/4/2/5/3/
J : /merci/ /mais/impossible/envoyer/ message/Japon/Cameroun/ C : /vrai/? /dommage/ J : /donner/moi/ton/adresse/poste/ C : /O/K/B/P/1/2/3/4/Yaoundé/ Cameroun/ J : /B/P/signifier/quoi/? C : /B/P/signifier/B/O/I/T/E/P/O/S/T/ A/L/E/ /je/pouvoir/recevoir/lettre/ bureau/poste/ J : /je/comprendre/ C : /tu/pouvoir/donner/donner/donner/ mon/adresse/tes/ami/sourd/japonais/ /je/aimer/écrire/lettre/ami/étranger /là/là/	/ありがとう/ /しかし/不可能だ/送る/メール/日本 /カメルーン/ /本当の/? /残念/ /与える/私/君の/住所/郵便/ /O/K/B/P/1/2/3/4/ヤウンデ/カメルーン/ /B/P/意味する/何/? /B/P/ 意味する /B/O/I/T/E/P/O/S/T/A/L/E/ /私/…できる/受け取る/手紙/事務所/郵便/ /私/分かる/ /君/…できる/与える/与える/与える/私の/住所/君 の/友だち/ろう者/日本人/ /私/…が好きだ/書 く/手紙/友だち/外国の/そこ/そこ/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"donne-moi ton adresse poste" "maison Charles"	"ドヌ・モア・トン・アドレス・ポスト" "メゾン・シャルル"
J : "tu as portable?" C : "oui vraiment portable bon" "avec ça je peux communiquer avec ami vite vite communiquer même sourd même entendant" "je te donne mon numéro portable 7 7 7 8 4 2 5 3"	"テュ・ア・ポーターブル?" "ウイ・ヴレマン・ポーターブル・ボン" "アヴェク・サ・ ジュ・プ・コミュニケ・アヴェク・アミ・ヴィット・ヴィッ ト・コミュニケ・メモ・スール・メモ・アンタンダン" " ジュ・トウ・ドヌ・モン・ニューメロ・ポーターブル・セッ ト・セット・セット・ユイト・カトル・ドウ・サンク・トロ ワ"
J : "merci" "mais impossible envoyer message Japon Cameroun" C : "vrai?" "dommage" J : "donne-moi ton adresse poste"	"メルシー" "メ・アンポッスィーブル・アンヴォアイエ・ メサージュ・ジャポン・カメルーン" "ヴレ?" "ドマージュ" "ドヌ・モア・トン・アドレス・ポスト"

C : "OK, B.P. 1 2 3 4 Yaoundé Cameroun"	"オーケー・ベ・ペ・アン・ドゥ・トロワ・カトル・ヤウン デ・カメルーン"
J : "B.P. signifie quoi?"	"ベ・ペ・スイニフィ・クワ?"
C : "B.P. signifie B O I T E P O S T A L E" "je peux recevoir lettre bureau poste"	"ベ・ペ・スイニフィ・ベ・オ・イ・テ・ウ・ペ・オ・エス・テ・ ア・エル・ウ" "ジュ・プ・ルスヴオアール・レトル・ ビューロー・ポスト"
J : "je comprends"	"ジュ・コンプラン"
C : "tu peux donner donner donner mon adresse tes amis sourds japonais" "j'aime écrire lettre ami étranger"	"テュ・プ・ドネ・ドネ・ドネ・モン・アドレス・テザミ・スー ール・ジャポネ" "ジェム・エクリール・レトル・アミ・ エトランジェ"

dialogue : français

J : Jun C : Charles

Leçon 15 : "Donne-moi ton adresse postale."

(Chez Charles)

J : Tu as un portable?

C : Oui. Vraiment le portable est bon! Avec ça, je peux communiquer avec les amis très vite, même les sourds, même les entendants. Je te donne mon numéro de portable. 7778-4253.

J : Merci. Mais c'est impossible d'envoyer le message du Japon au Cameroun.

C : C'est vrai? Dommage!

J : Donne-moi ton adresse postale.

C : OK. B.P. 1234 Yaoundé, Cameroun.

J : Qu'est-ce que la "B.P." signifie?

C : La "B.P." signifie "la Boîte Postale." Je peux recevoir les lettres au bureau de poste.

J : Je comprends.

C : Tu peux donner mon adresse à tes amis sourds japonais. J'aime écrire les lettres aux amis étrangers.

dialogue : japonais

J : 淳 C : シヤルル

第15課「君の住所をください」

(シヤルルの家で)

J : 携帯持ってる?

C : うん。携帯ってほんとに便利だね! これがあれば、ろう者だろうが聴者だろうが、友だちとすぐ連絡が取れるからね。ぼくの携帯番号を教えるよ。7778-4253。

J : ありがとう。でもね、日本からカメルーンには携帯メールを送れないんだ。

C :ほんとに? 残念!

J : 住所を教えてよ。

C : うん。カメルーン、ヤウンデ局、B.P. 1234。

J : B.P. って何のこと?

C : B.P. ってというのは、Boîte Postale (私書箱) のこと。郵便局で手紙を受け取れるんだ。

J : 分かった。

C : ぼくの住所を日本にいる君のろうの友だちに渡していいよ。ぼくは外国の友だちと文通するのが好きだからね。

nouveaux signes

/adresse/	住所、アドレス
/postale/	郵便の
/portable/	携帯電話
/numéro/	番号
/impossible/	不可能だ、…できない
/envoyer/	送る
/message/	メール、メッセージ
/dommage/	残念だ
/Boîte Postale (B.P.)/	私書箱
/signifier/	意味する
/recevoir/	受け取る
/bureau de poste/	郵便局
/étranger/	外国の

grammaire : "S+V+COD+COI" (主語+動詞+直接目的補語+間接目的補語)

この課では、LSAF の基本文型である S+V+COD+COI (主語+動詞+直接目的補語+間接目的補語) について学びます。

□S+V+COD+COI の典型例は/donner/です。「だれかに何かを与える」というときの、「だれか」が COI で、「何か」が COD に当たります。ここでは文の構成要素を明示するために「S+V+COD+COI」と便宜的に記しましたが、実は LSAF においてこのとおりの語順で表現されることはまれで、むしろ動詞の中に S および COI の人称が埋め込まれていることがふつうです。また、COD が S+V の前に置かれることもあります。

/je/donner (je > tu)/plantain/	Je te donne le plantain.	私は君にバナナを与える。
/plantain/je/donner (je > tu)/	Je te donne le plantain.	私は君にバナナを与える。

※ /donner (je > tu)/とは、/donner/という動詞において、手が一人称 (je 私) から二人称 (tu 君) の方向へ移動することを示しています。

□S や COI がそれぞれ一人称、二人称、三人称のとき、ひとつの動詞である/donner/がどのような変化を示すか、また、人称が複数の場合はそれぞれどのようになるか、DVD にすべての組み合わせの例文を収録しましたので参照してください (DVD>文法>SVOO)。

exercices

- (1) S+V+COD+COI 文型を必要とする動詞 (/donner/ /expliquer/ /offrir/ など) を用い、例文を作ってみましょう。
- (2) グループ内で質問と回答をしながら、人称の使い方を習得しましょう。
- (3) S および COI のいずれもが三人称である例文を考え、空間の使い方に慣れましょう (たとえば「父が母に…」 「先生が生徒に…」 など)。

culture 携帯とインターネット

アフリカのとりわけ都市部では、携帯が急速に普及しています。家庭に固定電話を設置することが普及するよりも早く、個人契約の携帯電話が広まりました。

日本でのろう者どうしの連絡手段は、直接訪問や郵便の時代から、ファックス、ポケベル、携帯、ウェブカメラによる手話会話など、いくつかの段階をへて変化してきました。一方、アフリカ諸国では家庭での固定電話が普及していないため、ろう者たちのコミュニケーションも、直接訪問から一足飛びに携帯メールへと移行しました。このため、ろう者たちが生活の中でファックスを使う文化はほぼ見られません。

また、インターネットの普及も目覚ましいものがあります。cyber（スイベール）というインターネットカフェが街角にあり、機器の動作はしばしばたいへん遅いのですが、世界中とメールのやりとりをすることができます。私がある国でひったくりの犯罪に遭ったとき、その話題がすぐに隣国のろう者たちにメールで伝わっていて驚いたものです。IT 技術の流入は早いので、いずれアフリカのろう者たちがウェブカメラで手話のチャットをするのがあたりまえになる時代も来ることでしょう。

note -----

Leçon 16 : "Je trouve ce pagne rouge très beau."

第 16 課「この赤い布はとてもきれいだと思う」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun C : Charles

/je/voir/ce/pagne/rouge/beau/ /marché/	/私/見る/これ/布/赤/美しい/ /市場/
J : /je/chercher/acheter/pagne/ici/ Afrique/pour/ma/grande/sœur/ /tu/ pouvoir/aider/moi/?	/私/探す/買う/布/ここ/アフリカ/…のために/私の/ 大きい/姉妹/ /君/…できる/助ける/私/?
C : /allons/boutique/là/ /voir/ça/il y a/ pagne/vert/bleu/rouge/ /tu/ préférer/lequel/?	/行こう/店/そこ/ /見る/それ/…がある/布/緑/青/ 赤/ /君/…の方を好む/どちら/?
J : /je/voir/ce/pagne/rouge/beau/ C : /oui/bon/ /mais/je/penser/argent/ cher/	/私/見る/これ/布/赤/美しい/ /はい/よい/ /しかし/私/思う/お金/高い/
J : /argent/moins cher/lequel/? C : /ce/pagne/vert/moins cher/que/ rouge/	/お金/安い/どちら/? /これ/布/緑/安い/…よりも/赤/
J : /ah/meilleur/pour/moi/ /je/ prendre/	/ああ/よりよい/…のために/私/ /私/取る/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"je vois ce pagne rouge beau" "marché"	"ジュ・ヴォア・ス・パーニュ・ルージュ・ボー" "マルシェ"
J : "je cherche acheter pagne ici Afrique pour ma grande sœur" "tu peux aider moi?"	"ジュ・シェルシュ・アシュテ・パーニュ・イスィ・アフリ ク・プル・マ・グランド・スール" "テュ・プ・エデ・モ ア?"
C : "allons boutique là" "vois ça il y a pagne vert bleu rouge" "tu préfères lequel?"	"アロン・ブティーク・ラ" "ヴォア・サ・イリヤ・パーニュ・ ヴェール・ブル・ルージュ" "テュ・プレフェル・ルケ ル?"
J : "je vois ce pagne rouge beau" C : "oui bon" "mais je pense argent cher" J : "argent moins cher lequel?" C : "ce pagne vert moins cher que rouge"	"ジュ・ヴォア・ス・パーニュ・ルージュ・ボー" "ウイ・ボン" "メ・ジュ・パンス・アージェン・シェール" "アージェン・モワン・シェール・?" "ス・パーニュ・ヴェール・モワン・シェール・ク・ルージュ "
J : "ah meilleur pour moi" "je prends"	"ア・メユール・プル・モア" "ジュ・プラン"

dialogue : français

J : Jun C : Charles

Leçon 16 : "Je trouve ce pagne rouge très beau."

(Au marché)

J : Je cherche et achète le pagne Africain pour ma grande sœur. Tu peux m'aider?

C : Allons au boutique-là! Voilà, il y a un pagne vert, bleu, rouge ... Lequel préfères-tu?

J : Je trouve ce pagne rouge très beau.

C : Oui, c'est bon. Mais je pense que c'est cher.

J : Lequel est moins cher?

C : Ce pagne vert est moins cher que le rouge.

J : Ah, c'est meilleur pour moi. Je le prends.

dialogue : japonais

J : 淳 C : シャルル

第 16 課 「この赤い布はとてもきれいだと思う」

(市場で)

J : 姉にアフリカの布を買おうと探してるんだ。手伝ってもらっていい?

C : そこの店に行こう! ほら、緑の布、青、赤... どれがいい?

J : この赤い布はすごくきれいだと思うな。

C : うん、いいね。でも、ちょっと高いと思う。

J : もっと安いのはどれ?

C : この緑の布は、赤いのよりも安いよ。

J : ああ、そっちの方がいい。それを買うよ。

nouveaux signes

/pagne/	布
/rouge/	赤い
/beau/	美しい
/chercher/	探す
/acheter/	買う
/Afrique/	アフリカ
/pour/	…のための
/grande sœur/	姉
/aider/	手伝う、助ける
/boutique/	店
/vert/	緑の
/bleu/	青い
/lequel/	どれ、どちら
/préférer/	より好む
/cher/	高い
/moins cher/	安い
/meilleur/	よりよい
/prendre/	取る

grammaire : "S+V+COD+A, lequel, comparatif" (主語+動詞+直接目的補語+属詞、どちら、比較級)

この課では、LSAF の基本文型である S+V+COD+A (主語+動詞+直接目的補語+属詞)、/lequel/ (どちら) および比較級について学びます。

□S+V+COD+A は、「…は…を…であると思う／見る」などの表現です。/trouver/ /penser/などでよく用いられます。

/je/voir/pagne/beau/ Je trouve le pagne beau. 私は布がきれいだと思います。

※ /trouver/ (/見つける/) は「発見する」意味となり LSAF の語義に合わないため、ここでは/voir/ のラベルを用いています。

□疑問詞/lequel/は、ほかの疑問詞と同様、原則として文末に置かれます。

/moins cher/lequel/? Lequel est moins cher? どっちが安い?

□比較級は/plus/を使う表現と、空間を活用する表現と、二通りあります。

/Cameroun/plus/grand/que/Japon/ Le Cameroun est plus grand que le Japon.
カメルーンは日本よりも大きい。

/Cameroun/Japon/Cameroun/grand/(Japon/petit/) Le Cameroun est plus grand que le Japon.
カメルーンは日本よりも大きい。

※ ()内は省かれることもあります。

□/meilleur/ (/bon/ (/よい) の比較級) のみ、独自の語があります。

exercices

- (1) S+V+COD+A 文型を含む例文 (/trouver/ /penser/など) を作り、会話練習をしてみましょう。
- (2) /lequel/を含む疑問文を作り、回答する練習をしてみましょう。
- (3) 自分の好きな形容詞を調べ、比較級の例文を作って会話練習をしましょう。また、比較級のふたつの表現の間の言い換えを試してみてください。

culture 市場での値切り交渉

多くの国ぐにでも同様ですが、アフリカの国ぐにの市場で買い物をするときは、値切りの交渉がたいへん重要になります。とりわけ、日本人がアフリカ諸国に行くと、肌の色で外国人だとすぐ分かってしまいますので、高い値をふっかけられようにならば交渉しなければなりません。

現地のろう者たちは、手話のできない商人たちを相手に、指折り数えたり、数字を空書したり、電卓に希望価格を打ち込んで要求したりするなど、器用な交渉術を身につけています。対する商人たちも、声を発しないで身ぶりだけでろう者と交渉します。

一般に、アフリカには非常に多種類の音声言語が分布しています。ひとつの国の中に、数十や百以上もの種類の言語集団がひしめき合うように共存していることが珍しくありません。商人たちも、異なる言語を話す人たち相手に商売することに慣れているようで、身ぶりだけでの売買交渉を器用にやり遂げます。このような身ぶりは、必ずしもろう者の手話と同一ではありませんが、視覚的コミュニケーションを得意とするろう者にとっては、口だけでぺらぺらと話しかけられるよりはるかに楽な会話のようです。

「君は肌が白いだろ。おれが交渉してやるから、君は物陰に隠れていなさい」と、現地のろう者が私の代わりに値引き交渉をしてくれることがあります。私のような外国人が、半端な音声言語を使って交渉に失敗するよりも、ろう者にまかせた方がはるかによい買い物ができるようです。その背景には、アフリカの多言語社会と柔軟なコミュニケーションのスタイルが関わっているようです。

note -----

Leçon 17 : "Vous chantez très bien!"

第 17 課「みなさん、歌がお上手ですね」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

P : un prédicateur sourd J : Jun

/vous/chanter/bien/ /prédicateur/sourd/église/sourd/	/あなたがた/歌う/うまく/ /説教師/ろう者/教会/ろう者/
P : /bienvenue/notre/église/sourd/ J : /merci/me/inviter/messe/	/ようこそ/私たちの/教会/ろう者/ /ありがとう/私/招く/礼拝/
P : /chrétien/sourd/arriver/tôt le matin/ pour/balayer/église/ /chanter/ ensemble/	/クリスチャン/ろう者/着く/早朝に/…のために/掃く /教会/ /歌う/いっしょに/
J : /vous/chanter/langue des signes/ P : /oui/	/あなたがた/歌う/手話/ /はい/
J : (1) /ah/vous/chanter/bien/ J : (2) /ah/vous/chanter/bon/	(1) /ああ/あなたがた/歌う/うまく/ (2) /ああ/あなたがた/歌う/よい/
P : /nous/préparer/un/petit/cadeau/pour/ toi/	/私たち/準備する/1/小さい/プレゼント/…のために /君/
J : /vrai/? /je/étonner/cadeau/ gros comme ça/	/本当の/? /私/驚く/プレゼント/こんなに大きい/
P : /ouvrir/voir/	/開ける/見る/
J : /ça/vêtement/Cameroun/ /merci/ beaucoup/	/それ/服/カメルーン/ /ありがとう/たくさん/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"vous chantez bien" "prédicateur sourd église des sourd"	"ヴ・シャンテ・ビアン" "プレディカトール・スール・エグリーズ・デ・スール"
P : "bienvenue notre église des sourd" J : "merci m'inviter messe"	"ビアンヴニュ・ノル・エグリーズ・デ・スール" "メルシー・マンヴィテ・メス"
P : "chrétien sourd arrivent tôt matin pour balayer église" "chanter ensemble"	"クレティアン・スール・アリヴ・ト・マタン・プル・バレイ エ・エグリーズ" "シャンテ・アンサンブル"
J : "vous chantez langue des signes" P : "oui"	"ヴ・シャンテ・ラング・デ・スィーニュ" "ウイ"
J : (1) "ah vous chantez bien" J : (2) "ah vous chantez bon"	(1) "ア・ヴ・シャンテ・ビアン" (2) "ア・ヴ・シャンテ・ボン"
P : "nous préparons un petit cadeau pour toi"	"ヌ・プレパロン・アン・プティ・カドー・プル・トア"
J : "vrai?" "je étonné cadeau" P : "ouvre vois"	"ヴレ?" "ジュ・エトネ・カドー" "ウーヴル・ヴォア"
J : "ça vêtement Cameroun" "merci beaucoup"	"サ・ヴェットマン・カメルーン" "メルシー・ボク"

dialogue : français

P : un prédicateur sourd J : Jun

Leçon 17 : "Vous chantez très bien!"

(Avec un prédicateur sourd à l'église des sourds)

P : Bienvenue à notre église des sourds!

J : Merci de m'avoir invité à la messe.

P : Les chrétiens sourds sont arrivés tôt le matin pour balayer la salle de l'église. On va chanter ensemble.

J : Vous chantez en langue des signes!

P : Oui!

J : Ah, vous chantez très bien!

P : Nous avons préparé un petit cadeau pour toi.

J : C'est vrai? Je suis étonné d'avoir un grand cadeau comme ça.

P : Ouvre ça.

J : C'est un vêtement du Cameroun! Merci beaucoup!!

dialogue : japonais

P : ろう者の説教師 J : 淳

第17課「みなさん、歌がお上手ですね」

(ろう者の教会でろうの説教師と)

P : 私たちのろう者の教会へいらっしゃい!

J : 礼拝に招いてくれてありがとう。

P : ろう者のクリスチャンたちが、朝早くから来て教会の掃除をしているんだよ。さあ、いっしょに歌いましょう。

J : 手話で歌うんだね!

P : そう!

J : みなさん、歌がお上手ですね。

P : 君にちょっとしたプレゼントを用意しました。

J : ほんと? こんな大きなプレゼント、びっくりだ。

P : 開けてごらん。

J : これ、カメルーンの服ですね! どうもありがとう!

nouveaux signes

/chanter/	歌う
/prédicateur/	説教師
/église/	教会
/église des sourds/	ろう者の教会、デフチャーチ
/inviter/	招く
/messe/	礼拝
/chrétien/	クリスチャン
/tôt le matin/	早朝に
/balayer/	掃く、掃除する
/cadeau/	プレゼント
/étonner/	驚かせる
/ouvrir/	開ける
/vêtement/	服

grammaire : "adverbe" (副詞)

この課では、LSAF のさまざまな副詞の用法について学びます。

□副詞や副詞句 (/bien/, /ensemble/, /tôt le matin/など)は、原則として S+V(+...) の後に置かれます。しかし、時などを表わす副詞句は、S+V の前に置かれることもあります。

/tu/chanter/bien/	Tu chantes bien.	君は上手に歌う。
/aujourd'hui/tu/faire/quoi/	Qu'est-ce que tu fais aujourd'hui?	君は今日何をするの？

□très (とても...) を伴って副詞を強調するとき、/très/という語を用いることはまれです。むしろ、表情や反復で強調を表現します。

/tu/chanter/bien/ (+表情) Tu chantes très bien! 君はとっても上手に歌うね!

□ジェスチャーに類する要素も、文を修飾したり強調したりするときに有効な表現手段となります。そのヴァリエーションを身につけると、副詞表現の範囲が広がります。

exercices

- (1) さまざまな副詞を含む例文を作り、会話練習をしてみましょう。
- (2) /très/という語を使わずに副詞を強調するため、表情や反復を活用してみましょう。
- (3) 大きさや形、重さ、ものの動きなどの表現を豊かにするため、ジェスチャーの要素を活用した文を作ってみましょう。

culture ろう者の教会

アフリカの町まちには、ろう者たちが集まるキリスト教会があります。一般にキリスト教の礼拝は、説教を聞いたり、賛美歌を歌ったり、聖書の朗読をしたりするなど、ことばを多用します。手話を話すろう者は、やはり自分たちのことばである手話でこのような宗教活動を営むのです。聴者の家族が行くのと別、手話で営まれる教会を自ら選ぶろう者は少なくありません。

ろう者が参加するキリスト教会には、ふたつのタイプがあります。ろう者が主宰し、手話だけで営まれている教会と、聴者が主宰し、手話通訳者が配置されている教会です。アフリカ諸国にはそのどちらもありますが、私が見聞したかぎりでは、プロテスタント系の教会には前者が多く、カトリックの教会には後者が多いように見受けられます。

アフリカ諸国にプロテスタント系のろう者の教会が多く見られる背景として、かつてアメリカ人のろう者牧師が、アフリカの広い範囲で学校教育や布教活動を展開したという歴史が関わっています（次の課の本欄参照）。手話で営まれていた教育・布教活動の中で育ったろう者の人脈が、アフリカ各地でその信仰を守り続けています。

一方、私が訪れたカトリック教会では、聴者の信者を手話通訳者として訓練し、聴者の神父が音声言語で営む礼拝に、ろう者が一緒に参加するという形をとっていました。とはいえ、礼拝が始まる前の日曜学校はろう者だけで集まり、そこでは手話のみで進められていましたので、その姿は大きく異なったものではないように見えます。

ろう者たちは、手話の賛美歌を歌います。音声の歌から翻訳したり、あるいはろう者が独自に創作したりしたもので、地域によりさまざまな賛美歌が伝承されています。また、大だいこ（「ドーン・ドーン」という空気の震動がろう者の身体に響く）を活用した賛美歌を歌う聖歌隊など、音を用いないキリスト教文化の多様性に出会うことができます。

note -----

Leçon 18 : "Les parents dont les enfants sont sourds viennent à l'école."

第 18 課「ろう児をもつ親たちが学校に来ています」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/parents/enfant/sourd/venir/école/ /dans/classe/école/sourd/	/親/子ども/ろう者/来る/学校/ /…の中に/教室/学校/ろう者/
C : /ici/école/je/enseigner/élève/sourd/ /tu/penser/quoi/?	/ここ/学校/私/教える/生徒/ろう者/ /君/思う/ 何/?
J : /je/voir/école/bon/ /je/content/ rencontrer/enseignant/sourd/là/travaill er/ici/ /merci/me/guider/dans/école/	/私/見る/学校/よい/ /私/嬉しい/会う/教員/ろ う者/そこ/働く/ここ/ /ありがとう/私/案内す る/…の中に/学校/
C : /pas/problème/ /voir/classe/5e/année/	/…ない/問題/ /見る/教室/第 5/年/
J : /cette/école/élève/sourd/dormir/ dedans/?	/この/学校/生徒/ろう者/眠る/中で/?
C : /non/ /maison/loin/enfant/sourd/ venir/école/	/いいえ/ /家/遠い/子ども/ろう者/来る/学校/
J : /je/voir/adulte/entendant/ici/école/	/私/見る/おとな/聴者/ここ/学校/
C : /ils/parents/ (1) /parents/enfant/sourd/venir/école/ (2) /enfant/sourd/parents/venir/école/	/彼ら/親/ (1) /親/子ども/ろう者/来る/学校/ (2) /子ども/ろう者/親/来る/学校/
J : /ils/venir/pour/faire/quoi/?	/彼ら/来る/…のために/する/何/?
C : /ils/participer/réunion/avec/ enseignant/ /ils/aussi/apprendre/ langue des signes/	/彼ら/参加する/会議/…と/教員/ /彼ら/…も/ 学ぶ/手話/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"parents enfant sourd viennent école" "dans classe école des sourds"	"パラン・アンファン・スール・ヴィエヌ・エコール" "ダン・クラス・エコール・デ・スール"
C : "ici école j'enseigne élève sourd" "tu pense quoi?"	"イスィ・エコール・ジャンセニユ・エレヴ・スール" "テュ・パンス・クワ?"
J : "je vois école bon" "je content rencontrer enseignant sourd là travailler ici" "merci me guider dans école"	"ジュ・ヴォア・エコール・ボン" "ジュ・コンタン・ラ ンコントレ・アンセニャン・スール・ラ・トラヴァイ エ・イスィ" "メルシー・ム・ギデ・ダン・エコール"
C : "pas de problème" "voir classe 5e année"	"パ・ドゥ・プロブレム" "ヴォア・クラス・サンキエ ム・アネ"
J : "cette école élève sourd dorment dedans?"	"セツテコール・エレヴ・スール・ドルム・ドゥダン?"
C : "non" "maison loin enfant sourd viennent école"	"ノン" "メゾン・ルワン・アンファン・スール・ヴィエ ヌ・エコール"
J : "je vois adulte entendant ici école"	"ジュ・ヴォア・アダユルト・アンタンダン・イスィ・エコ ール"
C : "ils parents" (1) "parents enfant sourd viennent école"	"イル・パラン" (1) "パラン・アンファン・スール・ヴィエヌ・エコール"

(2) "enfant sourd parents viennent école"	(2) "アンファン・スール・パラン・ヴィエヌ・エコール "
J : "ils viennent pour faire quoi?"	"イル・ヴィエヌ・プル・フェール・クワ?"
C : "ils participent réunion avec enseignant" "ils aussi apprennent langue des signes"	"イル・パルティスイブ・レユニオン・アヴェク・アンセ ニャン" "イル・オスイ・アプレヌ・ラング・デ・スイ ーニュ"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 18 : "Les parents dont les enfants sont sourds viennent à l'école."

(Dans la classe de l'école des sourds)

C : C'est l'école où j'enseigne les élèves sourds. Comment trouves-tu ça?

J : Je trouve cette école très bonne! Je suis content d'avoir rencontré les enseignants sourds qui travaillent ici. Merci de m'avoir guidé dans l'école.

C : Pas de problème. La classe qu'on a vu est la 5e année.

J : Cette école a un internat pour les élèves?

C : Non. Les enfants sourds viennent de leurs maisons situées dans les quartiers qui sont très loin.

J : Je vois quelques adultes entendants dans cette école.

C : Ils sont les parents. Les parents dont les enfants sont sourds viennent à l'école.

J : Ils viennent pour faire quoi?

C : Ils participent à la réunion avec les enseignants. Aussi ils apprennent la langue des signes.

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第18課「ろう児をもつ親たちが学校に来ています」

(ろう学校の教室で)

C : ここが、私がろうの生徒たちを教えている学校だよ。どう思う?

J : この学校、とてもいいね! ここで働いているろうの先生たちに会えてうれしいな。学校を案内してくれてありがとう。

C : いいっていいって。私たちが見た教室は、5年生。

J : この学校には生徒のための寄宿舎はあるの?

C : いや、ない。ろう児たちは、とても遠い自宅から通っているんだ。

J : 学校に聴者のおとなたちがいるね。

C : 親たちだよ。ろう児をもつ親たちが、学校に来ているんだ。

J : 何をしに来ているの?

C : 教員との会合に参加するためにね。それに、親たちは手話の勉強もしているんだ。

nouveaux signes

/parents/	両親
/enseigner/	教える
/élève/	生徒
/content/	うれしい
/1er/, /2e/, /3e/, /4e/, /5e/ ...	第 1、第 2、第 3、第 4、第 5...
/dormir/	眠る
/loin/	遠い
/adulte/	おとな
/participer/	参加する
/réunion/	会議

grammaire : "pronom relatif" (関係代名詞)

この課では、LSAF の関係代名詞について学びます。

□基本的に関係代名詞にあたる手話の特定の語は存在しません。修飾されるべき名詞の直後の S+V および指さしにより、修飾する節を作ります。ですから、この節を導く指さしが関係代名詞の機能をもつとすることができます。なお、疑問詞の/qui/ /où/は、この目的では用いられません。

/je/prendre/taxi/arriver/là/ Je prends le taxi qui arrive là. ここに来ているタクシーに乗るよ。
/ça/bureau/je/travailler/ C'est le bureau où je travaille. これが私が働いている事務所です。

□空間の活用により、修飾する節が修飾される語の前に置かれることがあります。

/parents/enfant/sourd/venir/école/ Les parents dont les enfants sont sourds viennent.
 ろう児を持つ親たちが来る。
/enfant/sourd/parents/venir/école/ Les parents dont les enfants sont sourds viennent.
 ろう児を持つ親たちが来る。

□口型"キ"、"ウ"、"ドン"などは伴いません。

exercices

- (1) 名詞を修飾する節を含む例文（「私が作った料理は…」 「父がくれた本は…」 など）を作り、/qui/ や/où/を用いなくて LSAF で表現してみましよう。
- (2) とくに、指さしの用法に注意して練習してみてください。

culture アフリカのろう学校

西・中部アフリカのろう学校を訪れると、ろう者の先生が手話で授業をしている光景を見ることが、さほど珍しくありません。「ろう者だから手話で教えるんですよ」「どうしてヨーロッパや日本はそうしないんですか」と何気なく言われてしまい、そのあまりの自然さに、訪れたこちらが驚かされることもしばしばです。

その背景には、あるろう者たちのキリスト教団体の事業があります。アフリカ系（黒人）アメリカ人のろう者牧師であるアンドリュー・J・フォスター（1925-1987）は、「ろう者のためのキリスト教ミッション（Christian Mission for the Deaf [CMD]）」を設立し、1957年からアフリカの広い地域でろう教育事業に取り組みます。CMDは、ろう者たちが自ら手話で運営するろう学校をアフリカ13カ国に32校設立し、ろう教育を普及させることに貢献しました。当時、欧米や日本の大部分のろう学校では口話（音声言語）中心の教育が行われ、手話の使用が抑制されていた頃ですから、その時代におけるアフリカの快挙であったとも言えるでしょう。

フォスターは「アフリカろう教育の父」と呼ばれ、尊敬を集めています。また、その教えを受けたろう者たちが、各地で学校やろう者団体を設立し、手話を使用言語としたさまざまな活動を展開させていきました。

もっとも、このように民間主導で普及したろう教育には限界もあります。未就学ろう児が多くいるであろうこと、私立ろう学校に通うには授業料が必要であることなどです。ユネスコなどが推進している「Education for all / Education pour tous（万人に教育を）」の目標がすべてのろう児にゆきわたるよう、教育・言語政策の確立も含めたいっそうの改善を続ける努力が必要でしょう。

note -----

Leçon 19 : "Si tu me donnes le message, je te réponds tout de suite."

第 19 課「メールをくれたらすぐに返事するよ」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

J : Jun I : un interprète en langue des signes

/si/tu/me/envoyer (tu>je)/message/je/te/ répondre/vite/ /un/interprète/langue des signes/	/もし…ならば/君/私/送る (君>私)/メール/私/君/ 返事をする/早く/ /1/通訳者/手話/
J : /tu/sourd/? I : /non/je/entendant/	/君/ろう者/? /いいえ/私/聴者/
J : /ah/bon/? /tu/signer/bon/comme/ sourd/	/ああ/よい/? /君/手話で話す/よい/…のように/ ろう者/
I : /merci/ /je/interprète/langue des signes/ /quand/sourd/avoir/ problème/sourd/appeler/moi/ portable/ /je/les/aider/	/ありがとう/ /私/通訳者/手話/ /…のとき/ろう 者/持つ/問題/ろう者/呼ぶ/私/携帯電話/ / 私/彼らを/支援する/
J : /je/aussi/interprète/langue des signes/ Japon/ /je/s'intéresser/activité/ interprète/Cameroun/ /après/mon/ retour/Japon/je/contacter/toujours/	/私/…も/通訳者/手話/日本/ /私/興味をもつ/活 動/通訳者/カメルーン/ /…の後に/私の/帰 還/日本/私/コンタクトを取る/いつも/
I : /bon/idée/ /donne-moi/ton/adresse/	/よい/考え/ /くれ/君の/住所/
J : /O/K/ /tu/vouloir/mon/adresse/ poste/ou/mon/e-mail/?	/O/K/ /君/ほしい/私の/住所/郵便/または/私の /Eメール/?
I : /donne-moi/deux/ /si/tu/me/ envoyer (tu>je)/message/je/te/ répondre/vite/	/くれ/2/ /もし…ならば/君/私/送る (君>私)/メー ル/私/君/返事をする/早く/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"si tu me envoyer message je te réponds vite" "un interprète langue des signes"	"スイ・テュ・ム・アンヴォアイエ・メサージュ・ジュ・ト ウ・レポン・ヴィット" "アナンテルプレット・ラング・デ・スィーニュ"
J : "tu sourd?" I : "non je entendant"	"テュ・スール?" "ノン・ジュ・アンタンダン"
J : "ah bon?" "tu signes bon comme sourd" I : "merci" "je interprète langue des signes" "quand sourd a problème sourd appelle moi portable" "je les aide"	"ア・ボン?" "テュ・スィーニュ・ボン・コム・スール" "メルシー" "ジュ・アンテルプレット・ラング・デ・スィ ーニュ" "カン・スール・ア・プロブレム・スール・ア ペル・モア・ポーターブル" "ジュ・レゼッド"
J : "je aussi interprète langue des signes Japon" "je m'intéresse activité interprète Cameroun" "après mon retour Japon je contacte toujours" I : "bon idée" "donne-moi ton adresse"	"ジュ・オスィ・アンテルプレット・ラング・デ・スィーニ ュ・ジャポン" "ジュ・マンテレス・アクティヴィテ・ アンテルプレット・カメルーン" "アプレ・モン・ルト ウール・ジャポン・ジュ・コンタクト・トゥージュール" "ボン・イデー" "ドヌ・モア・トン・アドレス"

J : "OK" "tu veux mon adresse poste ou mon e-mail?"	"オーケー" "テュ・ヴ・モン・アドレス・ポスト・ウ・モン・イーメール?"
I : "donne-moi deux" "si tu me envoyer message je te répons vite"	"ドヌ・モア・ドウ" "スイ・テュ・ム・アンヴォアイエ・メサージュ・ジュ・トゥ・レポン・ヴィット"

dialogue : français

J : Jun I : un interprète en langue des signes

Leçon 19 : "Si tu me donnes le message, je te répons tout de suite."

(Avec un interprète en langue des signes)

J : Tu es sourd?

I : Non, je suis entendant.

J : Ah bon? Tu signes très bien comme le sourd!

I : Merci. Je suis interprète en langue des signes. Quand les sourds ont quelques problèmes, ils m'appellent avec le portable. Je vais les aider.

J : Je suis aussi interprète en langue des signes au Japon. Je m'intéresse aux activités des interprètes au Cameroun. Après mon retour au Japon, on va se contacter toujours.

I : Bonne idée! Donne-moi ton adresse.

J : OK. Tu veux mon adresse postale ou mon adresse d'e-mail?

I : Donne-moi tous les deux. Si tu me donnes le message, je te répons tout de suite.

dialogue : japonais

J : 淳 I : 手話通訳者

第19課「メールをくれたらすぐに返事するよ」

(手話通訳者と)

J : 君、ろう者?

I : ううん、ぼくは聴者。

J : え? ろう者みたいに手話がうまいね!

I : ありがとう。ぼくは手話通訳者だよ。ろう者に何か問題が起こったとき、携帯に連絡がある。で、行って支援するんだ。

J : ぼくも日本では手話通訳者なんだよ。カメルーンの手話通訳活動に興味があるな。日本に帰ったら、いつでも連絡を取り合おうよ。

I : それはいいね。アドレスをちょうだい。

J : オッケー。住所とメールアドレスと、どっちがほしい?

I : 両方ちょうだい。メールをくれたら、すぐに返事をするよ。

Langue des Signes d'Afrique Francophone

nouveaux signes

/répondre/	返事をする
/interprète/	通訳者
/aussi/	…もまた
/s'intéresser/	興味をもつ
/activité/	活動
/après/	…の後
/retour/	帰還
/se contacter/	連絡をとる
/toujours/	いつも
/idée/	考え、アイディア
/e-mail/	イーメール

grammaire : "proposition" (節)

この課では、LSAF の節の用法について学びます。

□/si/+S+V (もし…ならば) は、主節の前に置くことも後に置くこともあります。ただし、日常的な用法としては前に置く方が多く見られます。

/si/tu/vouloir/je/donner (je > tu)/	Si tu veux, je te le donne.	もし君がほしいなら、あげるよ。
/je/donner (je > tu)/si/tu/vouloir/	Si tu veux, je te le donne.	もし君がほしいなら、あげるよ。

※ この/si/は節を作るときのみ用いられ、否定疑問文に対する「いいえ」の si には用いません。

□/quand/+S+V (…する時) は、主節の前に置くことも後に置くこともあります。ただし、日常的な用法としては前に置く方が多く見られます。

/quand/je/venir/ici/je/aider/toi/	Quand je viens ici, je t'aide.	ここに来る時は手伝うよ。
/je/aider/toi/quand/je/venir/ici/	Quand je viens ici, je t'aide.	ここに来る時は手伝うよ。

※ この/quand/は、手形、口型のいずれも疑問詞/quand/ (いつ) と同じです。

exercices

(1) /si/+S+V (もし…ならば) 節を含む例文を作って、会話練習してみましょう。

(2) /quand/+S+V 節を含む例文を作って、会話練習してみましょう。

culture アフリカの手話通訳者たち

公的な手話通訳者養成・派遣制度が整備されていないアフリカ諸国で、通訳者の人材輩出に寄与しているのがキリスト教会です。たとえば、クリスチャンの聴者が同じ教会に通うろう者とともに手話を学び、礼拝で手話通訳をしたり、日常の手話通訳活動に従事したりしています。また、家族やろう学校の教員が、手話通訳を担っているケースもあります。

アフリカ諸国の中でも、英語圏のナイジェリアは例外かもしれません。国立大学の教員養成コースで、ろう者の教授がナイジェリア手話を指導する科目を設けています。ここの卒業生で、ろう者と見まがうほどのベテラン手話通訳者に会ったことがあります。また、ナイジェリアの一部の大学は障害学生の受け入れに積極的で、手話通訳者を雇用してろう学生のサポートを行うなどしています。

手話通訳者育成をめぐる課題のひとつは、複数の手話言語の併存、とりわけ外來手話をもたらされたことに伴う多言語状況です。アフリカの一部の地域では、LSAF のほかに新たにフランス手話 (LSF) が導入されています。たとえば LSF のみで訓練を受けた手話通訳者が、LSAF を話すろう者のための通訳ができないといったことも起こっています。外來手話をもたらすことは、このような人材育成の現場にも影響をもたらしています。

note -----

Leçon 20 : "Ma sœur m'a dit qu'elle était occupée."

第20課「姉は忙しいと言っていました」

dialogue : LSAF (ordre des signes) 手話の語順

C : Charles J : Jun

/ma/sœur/dire/me/elle/occupé/ /aéroport/Yaoundé/	/私の/姉妹/言う/私/彼女/忙しい/ /空港/ヤウンデ/
C : /voir/là/ /arriver/aéroport/	/見る/そこ/ /着く/空港/
J : /vrai/mon/séjour/Cameroun/bon/ /dommage/je/pas/occasion/pour/dire/au revoir/ta/sœur/	/本当の/私の/滞在/カメルーン/よい/ /残念/ 私/…ない/機会/…のために/言う/さようなら/ 君の/姉妹/
C : /oui/hier/ma/sœur/dire/me/je/vouloir/ accompagner/aéroport/ /je/répondre/ O/K/allons/avec/J/U/N/	/はい/昨日/私の/姉妹/言う/私/私/…したい/同 行する/空港/ /私/返事をする/O/K/行こう/ …と/J/U/N/
J : /mais/sœur/pas/venir/pourquoi?/	/しかし/姉妹/…ない/来る/なぜ?/
C : /maintenant/matin/je/recevoir/son/ message/portable/ /sœur/dire/me/ elle/avoir/rendez-vous/pour/réunion/ même/occupé/ /elle/dire/bon/voyage/ pour/toi/	/今/朝/私/受け取る/彼女の/メール/携帯電話/ /姉妹/言う/私/彼女/持つ/約束/…のために/ 会議/同じ/忙しい/ /彼女/言う/よい/旅行/ …のために/君/
J : /dire/elle/je/remercier/elle/	/言う/彼女/私/感謝する/彼女/
C : /O/K/ /dire/bonjour/ta/famille/Japon/ /bon/voyage/	/O/K/ /言う/こんにちは/君の/家族/日本/ /よい/旅行/
J : /merci/ /voir/avenir/	/ありがとう/ /見る/未来/

dialogue : LSAF (mouvements de la bouche)

※口型の参考に (フランス語ではありません)

"ma sœur m'a dit elle occupée"	"マ・スール・マ・ディ・エル・オキュペ"
"aéroport Yaoundé"	"アエロポール・ヤウンデ"
C : "Voilà" "arrivé aéroport"	"ヴォアラ" "アリヴェ・アエロポール"
J : "vraiment mon séjour Cameroun bon" "dommage je pas occasion pour dire au revoir ta sœur"	"ヴレマン・モン・セジュール・カメルーン・ボン" "ドマージュ・ジュ・パ・オカズィオン・プル・ディー ル・オルヴォアール・タ・スール"
C : "oui hier ma sœur m'a dit je veux accompagner aéroport" "je réponds OK allons avec Jun"	"ウイ・イエール・マ・スール・マ・ディ・ジュ・ヴ・アコ ンパニエ・アエロポール" "ジュ・レポン・オーケ ー・アロン・アヴェク・ジュン"
J : "mais sœur pas venue pourquoi?"	"メ・スール・パ・ヴニユ・プルクワ?"
C : "ce matin je reçu son message portable" "sœur m'a dit elle a rendez-vous pour réunion même occupée" "elle dit bon voyage pour toi"	"ス・マタン・ジュールスユ・ソン・メサージュ・ポーター ブル" "スール・マ・ディ・エル・ア・ランデヴァー ブル・レユニオン・メム・オキュペ" "エル・ディ・ ボン・ヴォヤー・ジュ・プル・トア"
J : "dis elle je remercie elle"	"ディ・エル・ジュールメルシ・エル"
C : "OK" "dis bonjour ta famille Japon" "bon voyage"	"オーケー" "ディ・ボンジュール・タ・ファミーユ・ジ ャポン" "ボン・ヴォヤー・ジュ"

J : "merci" "voir avenir"

"メルシー" "ヴォア・アヴニール"

dialogue : français

C : Charles J : Jun

Leçon 20 : "Ma sœur m'a dit qu'elle était occupée."

(A l'aéroport de Yaoundé)

C : Voilà! On est arrivé à l'aéroport.

J : Mon séjour au Cameroun était vraiment bon! C'est dommage que je n'aie pas eu d'occasion de dire au revoir à ta sœur.

C : Oui. Hier, ma sœur m'a dit "Je veux l'accompagner jusqu'à l'aéroport!" Je lui ai répondu "OK, allons-y avec Jun."

J : Mais, pourquoi est-ce qu'elle n'est pas venue ici?

C : Ce matin, j'ai reçu son message de portable. Elle m'a dit qu'elle avait rendez-vous de la réunion et elle était très occupée. Elle a dit "Bon voyage!" pour toi.

J : Dis-lui que je la remercie.

C : OK. Dis "Bonjour" à ta famille au Japon. Bon voyage!

J : Merci! A bientôt!

dialogue : japonais

C : シャルル J : 淳

第20課「姉は忙しいと言っていました」

(ヤウンデの空港で)

C : ほら! 空港に着いたよ。

J : カメルーン滞在はほんとによかった! 君のお姉さんにお別れを言えなかったのが残念だな。

C : そうだね。昨日、姉は「空港までいっしょに行きたいわ」と言っていたよ。で、ぼくは「オッケー、淳といっしょに空港へ行こう」と答えたんだ。

J : でも、どうしてここへ来なかったのかな?

C : 今朝、姉から携帯メールが届いたんだ。姉が言うには、会議の約束があってすごく忙しいんだって。姉は君に「よいご旅行を!」と言っていたよ。

J : 君のお姉さんに、お礼を伝えてね。

C : オッケー。日本にいる君の家族によろしく。よい旅を!

J : ありがとう! また近いうちにね!

nouveaux signes

/occupé/	忙しい
/occasion/	機会、チャンス
/au revoir/	さようなら
/hier/	昨日
/accompagner/	一緒に行く、同行する
/Bon voyage!/	よい旅を！ いってらっしゃい！
/remercier/	感謝する
/famille/	家族
/A bientôt!/	また近いうちにね！

grammaire : "discours" (話法)

この課では、LSAF の話法について学びます。

□話法には、直接話法と間接話法があります。LSAF では、主節と従属節の間の静止時間の有無が、それらを見分けるポイントです。前者では間があり、後者にはありません。直接話法を間接話法に、間接話法を直接話法に言い換える時に、話者によっては人称が変化することにも注意しましょう。

□直接話法の場合は、発話内容の文の前にわずかな静止時間があります。そこで話者が交替したことを示します。

/ma/sœur/dire/me/ /je/vouloir/accompagner/ **Ma sœur m'a dit "Je veux l'accompagner."**
姉は私に「一緒に行きたい」と言った。

□間接話法の場合は、発話内容の文の前に静止時間がなく、連続的に表現します。そこで話者が交替していないことを示します。

/ma/sœur/dire/me/elle/occupée/ **Ma sœur m'a dit qu'elle était occupée.**
姉は私に忙しいと言った。

exercices

- (1) 直接話法を含む例文を作って表現し、間接話法に言い換えてみましょう。
- (2) 逆に、間接話法を含む例文を作って表現し、直接話法に言い換えてみましょう。

culture 日本とアフリカの距離

日本とアフリカの距離は、近いものではありません。

本書の舞台となったカメルーンを例にとると、日本からの地理的な距離はおよそ1万4,000km、地球一周の3分の1ほどあります。時間的な距離では、ヨーロッパでの乗り換え時間を含めれば片道30時間ほどかかります。金額としても、往復航空券で30万円ていどは覚悟しなければなりません。黄熱やマラリアの対策も不可欠です。東アジア諸国のように「ちょっと行ってきます」という感覚では訪れにくいのが現実です。日本の地理・歴史教育の中でアフリカがほとんどあつかわれてこなかったこと、政治・経済的な関わりが浅かったことなどもあり、アフリカが縁遠い大陸に見えてしまうのは、やむをえないことなのかもしれません。

しかし、日本がアフリカの植民地支配に関わらなかったという意味では、この「距離」はむしろ幸いなこととも言えます。非欧米地域の先進国として、日本に敬意をもって接してくれるアフリカの人は多く、日本の私たちこそがアフリカに対する心の扉を開いていきたいものです。

この本で紹介したように、携帯やインターネットは急速にアフリカ都市部に普及し、人と人の間の距離を縮めています。また、先進国の人々がアフリカを訪れるだけでなく、アフリカの人たちが世界で活躍する機会も増えてきました。

ろう者の世界も例外ではありません。これまでも、ウガンダ、ケニア、ナイジェリアなどのろう者が来日し、講演や交流をしています。日本の援助機関・団体や研究組織が、アフリカのろう者と手話に関わる機会も少しずつ増えてきました。

みなさんが身につけたフランス語圏アフリカ手話の語学力と、アフリカろう者の文化・歴史に関わる教養をもとに、「手話の話せる国際人」としていっそう活躍されることを期待しています。

/bon/voyage/! (いってらっしゃい!)

note -----

■ 欧文文献

- Christian Mission for the Deaf. 1956-2007. *Silent Witness; Deaf Witness*.
- Christian Mission for the Deaf. *CMD Website*. <http://www.cmdeaf.org/>
- Institute of German Sign Language and Communication of the Deaf, University of Hamburg. *International Bibliography of Sign Language*. <http://www.sign-lang.uni-hamburg.de/bibweb/>
- Kamei, Nobutaka. 2006. *The birth of Langue des Signes Franco-Africaine: Creole ASL in West and Central French-speaking Africa*. In: Online conference paper of Languages and Education in Africa Conference (LEA2006). Oslo: University of Oslo.
<http://www.pfi.uio.no/konferanse/LEA2006/program.html>
- Lane, Harlan, Robert J. Hoffmeister & Benjamin Bahan. 1996. *A journey into the Deaf-world*. San Diego: Dawn Sign Press.
- SIL International. *Ethnologue: Languages of the world*. <http://www.ethnologue.com/>
- Tamomo, Serge. 1994. *Le langage des signes du sourd Africain Francophone*. Cotonou, Bénin: PEFISS.
- Titus, Marius Rock. 1994. Better education for Deaf people in French-speaking Africa. In: Erting, Carol J., Robert C. Johnson, Dorothy L. Smith & Bruce D. Snider eds. *The Deaf way*. Washington, DC: Gallaudet University Press. 800-804.

■ 日本語文献

- 亀井伸孝. 2004. 「アフリカの手話言語」『アフリカ研究』(日本アフリカ学会) 64 (2004.3): 43-64.
- 亀井伸孝. 2006. 『アフリカのろう者と手話の歴史: A・J・フォスターの「王国」を訪ねて』東京: 明石書店.
- 亀井伸孝. 2007. 「フランス語圏のアメリカ手話: 西・中部アフリカの接触手話言語 (上)」『月刊言語』 36(9) (2007.9): 68-74.
- 亀井伸孝. 2007. 「フランス語圏のアメリカ手話: 西・中部アフリカの接触手話言語 (下)」『月刊言語』 36(10) (2007.10): 90-97.
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所. 1979. 『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Kamei, Nobutaka. 2004. Langues des signes en Afrique. *Journal des études Africaines (Africa Kenkyu)* (Association Japonaise pour les études Africaines) 64 (mars 2004): 43-64. [en japonais]
- Kamei, Nobutaka. 2006. *Histoire des sourds et des langues des signes en Afrique: Recherche sur le terrain dans le royaume dérivé d'Andrew J. Foster*. Tokyo: Akashi Shoten. [en japonais]
- Kamei, Nobutaka. 2007. ASL dans la francophonie: Une langue des signes de contact en Afrique Occidentale et Centrale (1). *Gengo (Langue)* 36(9) (septembre 2007): 68-74. [en japonais]
- Kamei, Nobutaka. 2007. ASL dans la francophonie: Une langue des signes de contact en Afrique Occidentale et Centrale (2). *Gengo (Langue)* 36(10) (octobre 2007): 90-97. [en japonais]
- Institut de Recherche sur les Langues et Cultures d'Asie et d'Afrique, Université des Etudes Etrangères de Tokyo. 1979. *Vocabulaire pour la recherche les langues d'Asie et d'Afrique: tome (2)*. Tokyo. [en japonais; français]

Remerciements 謝辞

言語研修「フランス語圏アフリカ手話」の準備と開催にあたり、以下の各位、諸機関のご協力をいただきました。記してお礼申し上げます。

亀井伸孝

(著者／2008年度言語研修「フランス語圏アフリカ手話」主任講師)

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

同所長・大塚和夫先生

同研修専門委員会

同研修専門委員会委員長・稗田乃先生

同研修専門委員会副委員長・澤田英夫先生

同情報資源利用研究センター (IRC)

同研究協力課

手話辞典・教材モデル：Mve Philippe 氏（故人）、Evouna Etoundi Henri 氏、Ernest Tsala 氏

収録会場提供者：Evouna Etoundi Henri 氏ならびにご家族

DVD 制作助言者：筑波技術大学・松藤みどり先生ならびに大塚和彦先生

仏文校閲・手話監修：Evouna Etoundi Henri 氏

仏文校閲・DVD 共同制作者：青木悠一氏

Je tiens à remercier toutes des personnes et des organisations suivantes pour leurs coopérations:

L'Institut de Recherche sur les Langues et Cultures d'Asie et d'Afrique, Université des Langues Etrangères de Tokyo (ILCAA);

Dr. Kazuo Ohtsuka, Directeur d'ILCAA;

Le comité de la formation linguistique d'ILCAA;

Dr. Osamu Hieda, le Président du comité de la formation linguistique d'ILCAA;

Mr. Hideo Sawada, le Vice-Président du comité de la formation linguistique d'ILCAA;

Le Centre des Ressources Informatiques (IRC) d'ILCAA;

Le Bureau d'Administration d'ILCAA;

M. Mve Philippe, M.Evouna Etoundi Henri et M.Ernest Tsala, les modèles du DVD;

M. Evouna Etoundi Henri et sa famille pour nous avoir offert son hospitalité pour notre atelier de tournage;

Mme Midori Matsufuji et Dr. Kazuhiko Ohtsuka, Université Technique de Tsukuba, comme conseillers techniques;

M. Evouna Etoundi Henri, comme le correcteur du français et de la LSAF;

M. Yuichi Aoki, comme le dessinateur du DVD et le correcteur du français.

Nobutaka KAMEI, Dr.

Auteur; Instructeur de la formation linguistique "LSAF," ILCAA, 2008

Appendice 1 : carte de l'Afrique francophone

付録 1: フランス語を公用語とするアフリカ諸国



アフリカには、広大なフランス語圏の地域が広がっている。これは、19 世紀末から 20 世紀中葉にかけて、フランスまたはベルギーによって領有されていたことに起因している。今日でもこれらの国々にはフランス語が公用語とされており、その数は 22 カ国におよぶ。むろん、この地域には数多くの民族諸語や地域共通語が分布しており、さらに地域・社会階層・分野などによってフランス語の使用頻度や重要度にばらつきがあるため、現実には地図からイメージされるほどフランス語によって均質に統一された地域であるとは限らない。しかし、いずれの地域においても、学校教育における教授言語などとしてフランス語が重視される傾向にある。とりわけ、多様な母語集団の家庭を背景にもつ聞こえない子どもたちが集まるろう学校では、民族諸語ではなくフランス語の教育を行うことが多い。これも LSAF が成立した要因のひとつをなしている。

亀井伸孝. 2007. 「フランス語圏のアメリカ手話: 西・中部アフリカの接触手話言語 (上)」『月刊言語』 36(9) (2007.9): 68-74.

Appendice 2 : pays des stagiaires qui ont appris la LSAF au Nigeria (1976-1987)

付録 2: ナイジェリアで LSAF の研修を受けた人たちの出身国 (1976-1987)



ナイジェリアのイバダンに拠点を構えていたろう者のキリスト教団体「ろう者のためのキリスト教ミッション (Christian Mission for the Deaf [CMD])」が展開したろう教育事業の中で、アメリカ手話と音声フランス語が接触し、LSAF が成立した。CMD の教員研修を受けた人たちの出身国は 19 カ国を数え、フランス語圏諸国をほとんど網羅している。この人材が LSAF の成立と普及に大きな役割を果たしたため、LSAF の言語分布もこの地図とほぼ重なるものと推定される。

亀井伸孝. 2006. 『アフリカのろう者と手話の歴史: A・J・フォスターの「王国」を訪ねて』東京: 明石書店.

Appendice 3 : carte de l'Afrique

付録 3: アフリカの白地図

